

平成29年度

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

伊那市教育委員会

## 教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

- 伊那市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき実施するものです。

(参 考)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関係条文抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 点検・評価は、平成28年度伊那市教育委員会重点施策の達成状況を対象とします。
- 上記重点施策に関連する事務事業は、2～3ページの一覧表のとおりです。
- 自己評価については、概ね下記の基準によります。

評価	内 容
a	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
b	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
c	一定の成果は上がっているが課題もあり、改善の必要がある
d	成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

- 「教育委員会評価委員」による点検・評価についての意見は、最終ページに記載しています。

平成28年度伊那市教育委員会重点施策に関連する事務事業一覧

No.	重点施策	事務事業名	評価	備考
<b>第1節 学校教育の充実</b>				
<b>1-1: 個性や豊かな人間性を育む学校教育の推進</b>				
1-1	学校教育の充実	総合的な学習	a	学校教育課
1-2		キャリア教育の推進	b	学校教育課
2		学力向上	b	学校教育課
3		幼保小中の連携	b	学校教育課
4		読書活動の推進	b	学校教育課
5		特別支援教育	b	学校教育課
6		外国籍児童生徒の支援	b	学校教育課
7		給食運営・給食施設整備	b	学校教育課
8	教育環境の整備促進	学校施設の耐震化・長寿命化	a	学校教育課
9		学校備品整備・情報教育	b	学校教育課
<b>1-2: 高校教育・大学教育との連携</b>				
10-1	高等学校支援	高等学校振興	b	学校教育課
10-2		私立高等学校振興	b	学校教育課
11	大学との連携推進	信州大学・東京藝術大学との連携	b	学校教育課
<b>1-3: 心の教育及び支援体制の充実</b>				
12	心の教育と支援	中間教室	b	学校教育課
13		子育て教育支援相談、家庭児童相談	b	学校教育課
14		不登校児童生徒支援ネットワーク	b	学校教育課
15		子どもと親の相談員配置	b	学校教育課
16		スクールカウンセラー配置	b	学校教育課
<b>第2節 生涯学習・芸術文化の振興</b>				
<b>2-1: 生涯学習の振興</b>				
17	生涯学習・社会教育の推進	市民大学・市民大学大学院	b	文化振興課
18		桜大学	a	生涯学習課
19		長谷生涯学習講演会	b	生涯学習課
20	公民館活動の推進	集会施設建設等補助	b	生涯学習課
21		公民館建設(施設管理)	a	生涯学習課
22		公民館共同事業	b	生涯学習課
23		公民館事業	b	生涯学習課
24	図書館の充実	蔵書管理	b	文化振興課
25		図書館イベント	b	文化振興課
26		図書館分館	b	文化振興課
27	生涯学習センターの充実	生涯学習センター	b	文化振興課
28	人権同和教育の推進	社会人権同和教育	b	生涯学習課
29		学校人権同和教育	b	学校教育課

2-2: 青少年健全育成と家庭教育の充実				
30	青少年の健全育成	学童クラブ	b	生涯学習課
31		少年補導委員会・少年補導センター	b	生涯学習課
32		青少年育成対策	b	生涯学習課
33		成人式	b	生涯学習課
2-3: 文化の振興				
34	文化事業などの充実	伊澤修二記念音楽祭	a	生涯学習課
35		い〜な音楽祭	b	生涯学習課
36		市民音楽祭	b	生涯学習課
37		信州伊那井月俳句大会	b	生涯学習課
38		進徳館の日	b	生涯学習課
39		伊那能	b	生涯学習課
40	博物館などの整備・活用	創造館	a	文化振興課
41		高遠町歴史博物館	b	文化振興課
42		信州高遠美術館	b	文化振興課
第3節 文化財の保存・継承・活用				
3-1: 文化財の保存・継承・活用				
43	文化財の保存・継承・活用	史跡高遠城跡	b	生涯学習課
44		民俗資料館	b	文化振興課
45		旧井澤家住宅	b	生涯学習課
46		民俗文化の伝承	b	生涯学習課
第4節 スポーツ・レクリエーションの振興				
4-1: 豊かなスポーツライフの実現				
47	スポーツライフの実現	市民体育祭	b	スポーツ振興課
48		総合型地域スポーツクラブ	a	スポーツ振興課
49		春の高校伊那駅伝	a	スポーツ振興課
50		ソフトボールの振興	a	スポーツ振興課
51		体育施設の整備	a	スポーツ振興課

## 第1節 学校教育の充実

### 1-1: 個性や豊かな人間性を育む学校教育の推進

豊かな人間性や社会性を身に付け、自ら学び、自ら考える「生きる力」を育むため、地域の自然、歴史、産業等に根ざした特色ある教育を進めます。また、基礎・基本の学力の確実な定着を図るとともに、一人ひとりの個性や人権を尊重した教育の充実をめざします。

#### (1) 学校教育の充実

事務事業	No.1-1	総合的な学習	H28年度決算額	5,107千円
事業の目的	子どもたちの生きる力、郷土を愛する心を育むため、地域の自然や歴史、文化を学習するなど、子どもの求めや願いを大切に伊那市らしい総合的な学習を推進します。			
事業内容	各学校が主体的に取り組む「体験学習」、「交流学習」、「体力づくり」など創造的な学習の支援			
達成状況	○全小中学校において、地域の特色を活かした総合的な学習を実施しました。 ○創造的活動推進事業交付金、信州型コミュニティ・スクール交付金を、全小中学校に交付しました。			
	区分	学校名	平成28年度主な取り組み	
	小学校	伊那	動物飼育（やぎ・羊他）、農作物栽培と調理、伝統文化の学習など	
		伊那東	稲・野菜栽培、伊那まつり踊り練習と参加、高齢者等との交流など	
		伊那北	稲・野菜栽培と調理、里山自然パーク体験、ビオトープ作りなど	
		伊那西	稲・野菜・シイタケ栽培、調理実習、陶芸、酪農体験など	
		富県	稲・小麦・野菜栽培、醤油・豆腐作り、竹細工、保育園との交流など	
		新山	地域学習と紙芝居作り、白毛餅・野菜栽培、新山まつり参加など	
		美篤	もち米・野菜栽培・調理、注連縄づくり、地域との交流など	
		手良	稲・野菜栽培、収穫物調理、手良探検、手良っこ太鼓、給食交流など	
		東春近	老健交流、稲・野菜栽培、りんご体験、竹を利用した活動など	
		西箕輪	稲、大豆栽培、豆腐作り、りんご作戦、老健・養護学校との交流など	
		西春近北	稲、小麦、野菜栽培、寒天の学習、和太鼓演奏、西春近再発見など	
		西春近南	稲、小麦、野菜栽培と小麦粉料理、地域探検、百人一首など	
		高遠	稲・小麦・野菜栽培、小麦粉調理、創作ダンス、郷土食調べなど	
		高遠北	そば、野菜栽培、高遠そば作り、養護学校との交流、音楽劇など	
	長谷	合鴨農法、孝行猿の物語公演、サンハート交流、戦争体験学習など		
	中学校	伊那	職場体験・進路学習、農業体験、アントレプレナー学習など	
		東部	農業・収穫体験、御柱体験、長野県・伊那市の学習、進路学習など	
		西箕輪	シイタケ栽培、伊那養護学校との交流、職場体験、地域文化体験など	
春富		農業体験、職場体験、進路学習、Made in kamiina の食卓など		
高遠		森林学習、キャリア教育、観桜期プロジェクト、アセアン交流など		
長谷	地域学習「入野谷学習」、「畑の時間」、福祉交流、進路学習など			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 総合的な学習の位置づけを常に明確にする必要があります。また、「体験学習」や「交流学習」を通して総合的に「生きる力」や「人間関係力」を養う必要があります。</p> <p><b>【方向性】</b> 意欲に関わる学力の伸長を大切に考え、地域の自然や文化・伝統など体験を通して行なわれる総合的な学習を推進します。また、信州型コミュニティ・スクール事業に取り組み、地域に開かれた学校づくりを推進します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.1-2	キャリア教育の推進	H28年度決算額	2,142千円
事業の目的	子どもたちが社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する力を育むために、学校、家庭、地域、産業界、行政が協働してキャリア教育の推進に取り組みます。			
事業内容	○伊那市キャリア教育推進委員会の運営 ○職場体験学習の実施 ○キャリア教育産学官交流会、「夢大学」の開催			
達成状況	○市内中学生を対象に学校、事業所と連携を図りながら職場体験学習を実施しました。 ・実施生徒数 697人 平均実施日数 3日 ・受入事業所数 180か所 (H26:190か所、H27:192か所) ○上伊那地域の産学官の交流や意見交換を通じて、今後のキャリア教育プログラムの充実、次世代育成活動の推進を図るために、キャリア教育産学官交流会を開催しました。 ・参加者 274人 (H26:88人、H27:161人) ○次世代を担う若者が郷土を知り、郷土に対する思いを深める機会として、「夢大学」を開催しました。 ・参加者 62人 (H26:127人、H27:84人)			
事業の課題及び方向性	【課題】 職場体験学習の実施に係る事務手続き等の流れは定着してきましたが、生徒・学校と受入事業所との目的、理念の共有をさらに図っていく必要があります。 【方向性】 事前事後学習等を通じて生徒一人一人に目的意識を持たせるための支援を行うとともに、地域で子どもを育てるという伊那市キャリア教育憲章のビジョンを関係者間で共有する取り組みを推進します。また、キャリア教育の一貫性、継続性を担保するため、小学校、高校等との連携を図る必要があります。			
自己評価	b			



放課後学力向上支援事業から (伊那中学校)



キャリア教育 (夢大学)

事務事業	No.2	学力向上	H28年度決算額	8,403千円
事業の目的	<p>自ら学ぶ意欲や学習習慣の形成を図るため、学力検査の結果などを基に授業改善などに努め、児童生徒一人ひとりの実態に応じた学習指導を行います。</p> <p>また、中学校の放課後行われる自発的な学習活動を支援します。</p>			
事業内容	<p>○標準学力検査（NRT）の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学4年生（641人）算数・小学5年生（644人）国語、算数、</li> <li>・中学2年生（657人）国語、数学、英語</li> </ul> <p>○学力検査結果の分析と授業改善</p> <p>○中学生の放課後学習支援事業の実施</p> <p>○小学生の学力向上支援（授業中、業間、放課後）事業の実施</p> <p>○読み書きにつまずきのある児童の早期発見・支援事業の実施</p>			
達成状況	<p>○伊那市が標準学力検査（NRT）を始めて14年が経過し、小中学校共に基礎・基本の学力の定着がみられます。各校においては、検査結果の分析を基に個別指導、授業改善に取り組むとともに、学力向上と関係が深い「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」など生活習慣の定着を進めました。</p> <p>○教育長、指導主事、学校長で構成する「学力向上検討委員会」を設置し、検査結果の検討、分析を行うとともに、「学力向上のための実践事例発表会」を開催し、検査結果を基にした授業改善の発表と模擬授業を行いました。</p> <p>○中学校の放課後学習支援員を募集、委嘱し、中学生の学力向上を支援しました。  受講生徒数 552人（H26:464人、H27:518人）  支援員数 52人（H26:51人、H27:50人）</p> <p>○平成28年度から新たな取り組みとして、小学校の学習支援員による学力向上支援事業を行いました。  受講児童数 995人  支援員数 58人</p> <p>○全小学校の1年生にMIM(多層指導モデル)の導入をしました。また、読み書き・漢字学習法についての研修を実施しました。</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b>平成28年度に市が実施した標準学力検査では、小中学校ともに算数・数学に若干の課題が見られ、国語及び英語では学力の定着が認められます。しかし、全国平均とのポイント差はわずかであり、各教科とも全国標準の範囲内にあるといえます。</p> <p>また、新学習指導要領で小学校における外国語教育が拡充されたことに伴う授業時間の確保、学習体制の構築が課題となっています。</p> <p><b>【方向性】</b>学力検査などの分析を、児童生徒一人ひとりの学習指導に活かすとともに、体験的な学習やグループ学習を取り入れたり、授業をもっと良くする3観点を特に意識した授業改善に取り組み、児童生徒の自発的な学習を促進します。</p> <p>また、家庭や地域などと連携し、学力向上と関係が深い「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」などの定着を図るとともに、家庭学習、ドリル学習等の充実を図ります。また、学力向上支援ボランティアの募集を行い、各校のカリキュラムに応じた学力向上支援事業に取り組みます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.3	幼保小中の連携	H28年度決算額	0千円
事業の目的	<p>保育園・幼稚園と小学校双方が幼児期から学童初期における子どもの発達と活動（遊びと教育）についての理解を深め、育ちや学ぶ意欲がスムーズに引き継がれ、健やかな成長を支援できるよう幼児教育と小学校教育の双方の質の向上を図るとともに、中一ギャップと言われる中学校進学時の不登校の増加など、学校不適應への適切な対応を図ります。</p> <p>子どもが抱える課題などについて早い時期から情報の共有を図り、早期に適切な支援を行い、不適應、不登校等への早期対応、未然防止を図ります。</p>			
事業内容	<p>○幼保小連絡会、小中連絡会の開催 ○学校行事等を通じた児童生徒の交流</p> <p>○保育士、小・中学校教員の相互体験 ○幼保小・小中連携推進委員会開催</p> <p>○幼保小連携プログラム「伊那市版幼保小連携プログラム」の実践</p>			
達成状況	<p>○保育士・小学校教職員の相互1日体験を実施、子どもの実態を体験的に感得することで双方の意識変革を促す取組になっています。</p> <p>○「幼保小連携推進委員会」において作成した伊那市版「幼保小連携プログラム」に基づく、地域の特性を生かしたアプローチ・スタートカリキュラムの作成、実践により、保育園から学校へのスムーズな連絡が図られました。</p> <p>○支援を要する子どもを対象に「発育発達支援票」を作成し、幼・保・小・中・高の情報共有を図っています。</p> <p>○一日入学、運動会、音楽会、文化祭など学校行事への参加、クラス交流、中学校教職員の小学校での出前授業等、入学、進学への期待感を育みました。</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b>小1プロブレム、中一ギャップと言われる進学時の学校不適應への対応が求められています。</p> <p><b>【方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒、教職員間の相互交流などを通じ心的距離の縮小を図ります。</li> <li>・伊那市版「幼保小連携プログラム」の内容について、教職員、保育士が理解を深める合同研修会を実施するとともに、カリキュラムの実践、検証、見直しを進めます。</li> </ul>			
自己評価	b			

事務事業	No.4	読書活動の推進	H28年度決算額	35,008千円
事業の目的	<p>心豊かな人間性と自ら学ぶ学習意欲を育むため、学校図書館の充実を図るとともに、読書活動を推進します。</p>			
事業内容	<p>○図書館司書の配置</p> <p>○読み聞かせボランティアの活用及び充実</p> <p>○学校図書館システム導入</p>			
達成状況	<p>○「朝読書」などの全校一斉読書、地域のボランティア等による読み聞かせを全小中学校行っています。</p> <p>○全校に配置した学校図書館司書（17人うち2校勤務4人）が、読書活動や図書館活用の支援、読書環境の充実に力を発揮しています。</p> <p>○図書館システムを全小中学校に導入しました。</p> <p><b>【参考】</b>図書館の本の1人当たり平均貸出冊数  小学校 109冊（H25 105.3 H26 110 H27 112）冊  中学校 29冊（H25 22.6 H26 32 H27 35）冊  児童生徒1人当たり蔵書数 38.9冊（H25 37.2 H26 38 H27 37.9）冊</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b>読書習慣の定着、自主的、主体的学習活動の支援、情報の収集、選択、活用能力の育成が求められています。また図書館システムのスムーズな本格稼働に係る研究や検討を行います。</p>			



	<p><b>【方向性】</b>引き続き学校図書館の蔵書の充実を図るとともに、図書館を活かし子どもの読書活動や調べ学習を支える図書館司書を配置します。 読み聞かせボランティアの活用を図り、読書活動を推進します。 図書館システムを有効活用した読書活動および調べ学習を充実していきます。</p>
自己評価	b

事務事業	No.5	特別支援教育	H28年度決算額	50,695千円																																		
事業の目的	<p>知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、情緒障害等心身に障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行います。</p>																																					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援教育支援介助員・講師の配置</li> <li>○ 伊那中央病院院内学級の設置、運営</li> <li>○ 「ことばの教室（伊那小学校内）」「まなびの教室（伊那北小学校内）」の設置、運営</li> <li>○ 特別支援教育就学奨励費の支給</li> </ul>																																					
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援学級に在籍する児童生徒の増加に対応するため、特別支援教育支援員を市費で配置しました。</li> </ul> <p><b>【参考】特別支援学級在籍児童生徒数・クラス数・支援員数</b></p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">小学校</th> <th colspan="2">中学校</th> <th rowspan="2">支援員数 内( )講師数</th> </tr> <tr> <th>児童数</th> <th>クラス数</th> <th>生徒数</th> <th>クラス数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度</td> <td>161</td> <td>34</td> <td>75</td> <td>15</td> <td>26(1)</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>185</td> <td>40</td> <td>67</td> <td>15</td> <td>25(1)</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>213</td> <td>40</td> <td>75</td> <td>17</td> <td>28(1)</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>229</td> <td>44</td> <td>91</td> <td>18</td> <td>32(1)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-left: 20px;">特別支援教育就学奨励費の支給 201人 (H25:150人、H26:159人、H27:187人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 副学籍制度による、特別支援学校に就学する児童生徒と居住する地域の小中学校の児童生徒の交流及び共同学習の拡充に努めました。(副学籍児童生徒50名)</li> </ul>					小学校		中学校		支援員数 内( )講師数	児童数	クラス数	生徒数	クラス数	平成25年度	161	34	75	15	26(1)	平成26年度	185	40	67	15	25(1)	平成27年度	213	40	75	17	28(1)	平成28年度	229	44	91	18	32(1)
	小学校		中学校			支援員数 内( )講師数																																
	児童数	クラス数	生徒数	クラス数																																		
平成25年度	161	34	75	15	26(1)																																	
平成26年度	185	40	67	15	25(1)																																	
平成27年度	213	40	75	17	28(1)																																	
平成28年度	229	44	91	18	32(1)																																	
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b>特別支援学級に在籍している児童生徒数が増加するとともに、自・情障学級では、学年が上がっても在籍児童数が減少しない傾向にあります。また、通常学級において学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、広汎性発達障害等、学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加しており、支援体制の充実が求められています。</p> <p><b>【方向性】</b>関係機関との連携を図り、子どもの教育的ニーズに最も的確に応える支援を提供するとともに、ノーマライゼーションの観点からも、自・情障学級から通常学級への転籍に向けた支援のあり方を検討する必要があります。</p> <p>また、児童生徒、保護者等が障害への理解を深めるとともに、特別支援学校に通う子どもたちが、友だちとの繋がりや地域での存在感を継続できるよう副学籍制度の充実に努めます。</p>																																					
自己評価	b																																					

事務事業	No.6	外国籍児童生徒の支援	H28年度決算額	6,519千円
事業の目的	<p>通訳、相談、学習支援等の支援体制を整備し、外国籍児童生徒の学校生活への適応、学力の定着を図る。</p>			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本語教室の設置、運営（伊那東小、伊那北小、東部中）</li> <li>○ 外国語児童生徒支援相談員の設置（伊那東小、伊那北小、東部中） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の学習及び学校生活の支援、家庭への便りの作成、家庭との連絡、通訳等</li> </ul> </li> <li>○ 発達障害等特別支援を必要とする外国籍児童の支援介助、家庭と学校との連絡、通訳等に当</li> </ul>			

	たる支援員の配置 (伊那東小)				
達成状況	外国籍児童生徒に対する、通訳、相談、学習等の支援を継続して行いました。				
	【参考】外国籍児童 生徒数		伊那東小学校	伊那北小学校	東部中学校
		平成25年度	30	27	20
		平成26年度	32	26	23
		平成27年度	33	29	29
平成28年度	34	31	32		
その他 小学校5校12人、中学校3校10人					
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> 障害があり特別な支援を必要とする外国籍児童への対応や、多様な言語への対応も必要となっています。 <b>【方向性】</b> 日本語教室の設置、運営と外国語児童生徒支援相談員等の適切な配置を引き続き行います。				
自己評価	b				

事務事業	No.7	給食運営・給食施設整備	H28年度決算額	746,465千円
事業の目的	児童生徒が食事に関する正しい理解と望ましい食習慣を身につけるため、栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食育を推進します。			
事業内容	○給食運営 ○栄養士、給食技師の配置			
達成状況	給食技師の臨時職員化、食材の共同購入により、経費の削減を図るとともに、栄養士を各学校及び調理場に配置することにより、食育の推進を図り、地産地消の安全安心な美味しい給食を提供しました。(平成28年度県内産食材利用率 約51.2%) <b>【参考】</b> 給食提供数 1,314,254食 (H26:1,352,141食、H27:1,330,361食) 給食技師数72人 (H26:71人、H27:66人) 給食1食あたりの経費 187円 (H26:188円、H27:176円) 伊那市学校給食施設整備計画に沿って給食施設の整備を行いました。 ・伊那中・伊那西小学校給食共同調理場の建設 328,082千円 ・給食配送車の購入 (H28の工事期間中、伊那中へ配送) 7,100千円			
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> 子どもに安全安心、そして美味しい給食を提供するとともに、子どもの食に対する理解を深める必要があります。 <b>【方向性】</b> 各学校と連携を取りながら、本格的な農業体験に基づく作物の育成、食材の生産及び食に対する「いただきます」「もったいない」の感性を育む食農体験事業「暮らしのなかの食」の取り組みを小中学校21校で継続します。また、人的配置、食材調達など効率的な給食運営を図るとともに、計画的に給食施設の整備を行います。			
自己評価	b			



夏野菜カレーづくり



野菜の収穫

## (2)教育環境の整備促進

事務事業	No.8	学校施設の耐震化・長寿命化	H28年度決算額	312,761千円
事業の目的	<p>○児童生徒の安全確保と地域の防災拠点の整備を図るため、小中学校の非構造部材耐震化とトイレの改修を行います。</p> <p>○施設の維持管理を行うとともに、教育環境の改善を図るため、校舎内外の補修等整備を行います。</p>			
事業内容	<p>○補強工事等 構造部材（建物の主要な柱・壁）の耐震化についてはH26年度で全校終了し、H27より各校体育館の非構造部材（天井材・窓ガラス・照明器具等）の耐震化を進めていきます。</p> <p>○補修工事等</p>			
達成状況	<p>○耐震補強・トイレ改修工事等</p> <p>(1) 補強・改築工事の実施 伊那小学校渡り廊下、第1, 2体育館非構造部材耐震化・屋根改修工事 新山小学校体育館非構造部材耐震化・屋根改修工事 美篤小学校体育館非構造部材耐震化・屋根改修工事 春富中学校第1, 2体育館非構造部材耐震化・屋根改修工事 ※全校小中学校体育館非構造耐震化率H28末：52.0%（25棟中13棟）</p> <p>(2) トイレ改修工事等の実施 東部中学校（普通教室棟・特別教室棟・体育館 計10箇所）</p> <p>○ 補修工事等</p> <p>(1) 西春近北小学校プール濾過機取替工事 (2) 美篤小学校管理棟防火扉改修工事 (3) 新山小学校太陽光発電設備設置工事</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 構造部材の耐震化は平成26年度末で市内全校が完了しましたが、非構造部材の耐震化はほとんどの学校が未着手の状況です。</p> <p><b>【方向性】</b> 平成32年度末までに、有利な財源を利用して市内全小中学校の体育館の非構造部材耐震化工事を推進します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.9	学校備品整備・情報教育	H28年度決算額	46,911千円
事業の目的	情報教育を含む教育環境の充実を図るため、教材備品及び情報機器の整備を推進します。			
事業内容	<p>○一般教材・理科教材備品の整備</p> <p>○タブレット端末、校務用パソコン、プロジェクター等の環境整備</p> <p>○「ICT教育」の現状調査及び課題分析</p> <p>○文科省委託事業（少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業）</p>			
達成状況	<p>○必要な教材備品及び情報機器を整備しました。</p> <p>○情報委員会を開催し、情報セキュリティに対する意識向上を図りました。</p> <p>○平成28年度は、校務用パソコン412台を新規にリースしています。</p> <p><b>【参考】</b> タブレット端末の総数 361台（リース継続分+寄付分+レンタル分） PC教室以外の教室のLAN環境の整備率=30%（市内小中学校21校中7校）</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 新学習指導要領に対応する教材備品の整備と、情報機器等の適切な管理を行う必要があります。また、パソコン・タブレット等との上手な付き合い方を身につける必要があります。</p> <p><b>【方向性】</b> 学校からの要望に基づき教材備品や情報機器（タブレット他）を整備するとともに、情報セキュリティ意識の向上と正しい利用のための情報モラル教育を進めます。また、国の委託事業を受け、情報教育の向上を図ります。</p>			
自己評価	b			

## 1-2：高校教育・大学教育との連携

高等学校教育の充実のための支援を実施するとともに、大学との連携により、高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。

### (1) 高等学校への支援

事務事業	No.10-1	高等学校振興	H28年度決算額	3,000千円															
事業の目的	過疎地域高等学校の振興を図るため、高遠高等学校振興会の活動を支援します。																		
事業内容	高遠高等学校振興会活動の支援																		
達成状況	<p>○高遠高等学校振興会へ負担金を支出し振興会事業を支援しました。</p> <p>○平成23年度から振興会で行う通学費補助事業の経費を市で負担しています。</p> <p>○平成7年にコース制導入後、文科省の学力向上実践研究校としての実践研究（平成21年度から3年間）、長野大学、日本福祉大学、東京藝術大学など高大連携の拡充を図るとともに、平成24年度、高遠高等学校の将来像検討委員会を設置し、教育内容の改善、充実に努めています。また、伊澤修二記念音楽祭ほか、地域や保育園、小中学校と連携した取り組みを進めています。</p> <p>○入学者数の推移</p> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学者数</td> <td>118</td> <td>119</td> <td>110</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>定員</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table> <p>○バス通学費補助 142人、1,600千円（H26:144人、1,600千円 H27:151人、1,600千円）</p>					平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	入学者数	118	119	110	110	定員	120	120	120	120
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度															
入学者数	118	119	110	110															
定員	120	120	120	120															
事業の課題及び方向性	<p>【課題】定員確保、高等学校再編後も存続可能な将来像構築が求められています。</p> <p>【方向性】高遠高等学校は、コース制を導入する等、特色ある学校運営を行っています。地域の魅力ある学校として発展していくためにも、「高遠学園構想」に基づく特色ある教育の拡充、高遠中学校等との連携及び定員確保へ向けた遠距離通学者の利便性を高める支援が引き続き必要です。</p>																		
自己評価	b																		
事務事業	No.10-2	私立高等学校振興	H28年度決算額	1,146千円															
事業の目的	地域の私立高等学校の振興を図るため、私立高等学校の運営を支援します。																		
事業内容	伊那西高等学校に対する支援 ・職員の待遇改善・福利厚生、保護者の負担軽減等の支援																		
達成状況	<p>同校は、市内の生徒を多数受け入れており、地域の高等学校教育に大きな役割を果たし、地域に根ざした高等学校として定着しています。</p> <p>【参考】定額補助 1校当たり600,000円（H22年度より600,000円） 生徒割補助1人当たり2,600円（H22年度より2,600円） 伊那市に住所を有する生徒数210人（H25:154人 H26:181人 H27:191人） 全校生徒数527人（H25:473人 H26:505人 H27:515人）</p>																		
事業の課題及び方向性	<p>【課題】昭和63年より普通コース、進学コースの2コース制を導入、地域中学校との連携を重視し、受験機会の複数化、特色ある教育の充実及び定員確保に引き続き努めていきます。</p> <p>【方向性】地域の高等学校教育に果たす役割や学校運営を取り巻く厳しい状況を考慮し、学校運営費補助を継続して行ないます。</p>																		
自己評価	b																		

## (2) 大学との連携推進

事務事業	No.1 1	信州大学・東京藝術大学との連携	H28 年度決算額	0 千円
事業の目的	高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。			
事業内容	信州大学との地域連携、交流の続く東京藝術大学との連携強化			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小中学校での信州大学の教員による作物（アマランサスなど）の栽培指導</li> <li>○信州大学生による中学校学力支援ボランティア登録 9 人（H27: 8 人）</li> <li>○信州大学農学部の教職免許取得学生の研修受入れ</li> <li>○信州大学生のボランティアによる通学合宿・おいで塾への協力</li> <li>○東京藝術大学学生による吹奏楽及び合唱指導</li> </ul> <p>・市内中学校・高等学校の吹奏楽、合唱部員等を対象に、東京藝術大学学生を講師として行われる講習会</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 連携を通じ、専門性のある教育を受ける環境の創出とともに、信州大学卒業生の伊那市内企業への就職、市内での就農につながる取り組みが求められています。</p> <p><b>【方向性】</b> 様々な機会を通じ、信州大学・東京藝術大学関係者との意見交換を行い、互恵関係を築く取り組みにチャレンジします。また、長野県工科短期大学校（上田市）に次ぐ県内 2 番目の工科短大として、平成 28 年 4 月に新たに開校した南信工科短期大学校との連携により、これからの長野県の産業を支えていく「ものづくりのスペシャリスト」を育成します。</p>			
自己評価	b			

## 1-3：心の教育及び支援体制の充実

小中学校における心の問題や不登校、いじめ問題の解消に努めるとともに、良好な環境の中で子育てができるよう家族全体を支援します。

### (1)心の教育と支援

事務事業	No.1 2	中間教室	H28年度決算額	3,894千円
事業の目的	不登校の児童生徒の居場所を確保し、学校復帰へ向け支援、相談及び学習指導を行ないます。			
事業内容	中間教室の設置 ・適応指導員による相談支援、体験活動、集団活動、学習指導等 <b>【小学部】</b> 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～15:30、会場：やまびこ学級1階 <b>【中学部】</b> 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～16:00、会場：やまびこ学級2階			
達成状況	○中間教室通室児童生徒のうち小学生の16.6%、中学生の71.4%が進学又は学校へ復帰しました。 <b>【参考】</b> 通室者数 小学部6人 (H25:7人 H26:6人 H27:3人) 中学部7人 (H25:14人 H26:19人 H27:14人) 通室割合 (通室児童生徒数/不登校児童生徒数) 小学部 60% (H25:58.3 H26:28.5 H27:8.1) % 中学部 17% (H25:28.6 H26:31.6 H27:36.8) %			
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> 長期化した不登校児童生徒への支援が課題であり、未然防止、早期発見、早期対応が求められています。 <b>【方向性】</b> 学校、子ども相談室、医療機関等との連携を図りながら、児童生徒、家庭への早期対応、支援に努めます。			
自己評価	b			

#### ☆ 春富中学校人権宣言

2007年1月19日 春富中学校生徒会

- 第1条 私たちは、いかなる時もお互いに平等であり、楽しく、安心して学校生活を送っていく権利をもつ。
- 第2条 安心して生活できる学校とは、命を大切にし、学校全体に落ち着きがあり、友達を信頼でき、行きたいと思える学校である。そのような学校にするため、私たちは努力しなければならない。
- 第3条 私たちは、個人の性格や容姿、人柄や考え、身体的な特徴、能力や性別、年齢差などといった個性の違いを理由とした、あらゆる差別や、中傷、いじめなどの行為をしてはならないし、こういった行為を許してはならない。
- 第4条 私たちは学校生活において自分の意見や考えを表現する自由がある。
- 第5条 私たちは、差別されたり、いじめられたり、中傷されたりしたとき、クラスや学年・生徒会、そして親や先生、友達に助けを求めることができる。
- 第6条 差別されたり、いじめられたり、中傷されたりしている人を守るため私たちは立ち上がる義務がある。
- 第7条 私たちは、春富中からいじめや差別をなくしていくために、相手の気持ちを考え、思いやりを持って、行動できるように努力する。

#### ☆ 西箕輪中学校人権宣言

2010年1月21日 西箕輪中学校生徒会

- 第1条 私たちは、いじめや差別についてよく理解するよう努力し、周りにあるいじめに気付けるようになります。
- 第2条 私たちは、一人ひとりの個性を認め、いじめや差別を絶対に許しません。
- 第3条 私たちは、毎日明るくあいさつをし、みんなが声かけできる環境をつくります。
- 第4条 私たちは、常に相手の気持ちを考えて行動し、温かい言葉で話します。
- 第5条 私たちは、どんな時でも、助け合い、支え合い、励まし合う友達をつくります。

事務事業	No.1 3	子育て教育支援相談、家庭児童相談	H28 年度決算額	27,407 千円
事業の目的	親の養育力と家族機能を高め、子どもが自立へ向けての生きる力を培うため、家族、地域、関係機関が連携し、乳幼児期から思春期まで一貫した相談支援を行います。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関係機関との連携及び支援（保健・医療・福祉・教育・警察・司法等）</li> <li>○要保護児童生徒（虐待を受けている児童、非行、虞犯等）の保護</li> <li>○個別ケース支援会議による関係機関の役割分担と連携</li> <li>○就学相談</li> <li>○指定相談支援事業所の運営</li> </ul>			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども相談室を中心に、関係機関と連携して多数の相談や案件に対応しました。</li> <li>○発達障害を持つ子どもが人とうまくかかわっていくための方法を身につけるためのソーシャルスキルトレーニング（SST）や親の養育力の向上を図るためのペアレントトレーニングを実施しました。</li> <li>○児童虐待へ対応を強化するため、関係機関の研修を実施しました。また、個別ケース支援会議を開催し通告後の子供の安全を守るための支援を強化しました。</li> </ul> <p>【参考】相談・支援数 6,018 件（H26：6,072 件 H27：6,374 件）  児童虐待通告件数 67 件 122 人（H26：64 件 121 人 H27：36 件 77 人）  個別ケース支援会議 212 回（H26：286 回 H27：165 回）  教育支援委員会に諮った幼児児童生徒数 114 人（H26：111 人 H27：122 人）  サービス等利用計画作成数：64 人</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】相談件数が増加するとともに、相談内容は多様化し、緊急性が増しています。そこで、相談に適切かつ迅速に対応するため、専門職を配置するとともに、児童福祉法、障害者自立支援法の改正に伴い、小鳩園の相談支援部門と子ども相談室の機能の一本化を図ることにより、ライフステージに応じた様々な子どもの問題に対応できるようになりました。しかしながら、全体の相談件数が多いことから、個別のケースについて、十分対応できていない状況にあります。また、児童虐待については、困難な事例も多く、幅広い見識や専門性の高い対応が求められています。</p> <p>【方向性】今後は問題が深刻化する前に対応するため、関係機関との連携体制の更なる充実と、早期支援等の防止施策や子どもの健やかな育ちを阻む種々の根本要因に対応する施策の検討が求められます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.1 4	不登校児童生徒支援ネットワーク	H28 年度決算額	27,426 千円																				
事業の目的	子ども相談室を中心に、学校、中間教室、福祉、医療、民間支援団体等、関係機関が連携し不登校児童生徒の早期発見、早期対応、支援を行います。																							
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校、子ども相談室等が連携し不登校児童生徒の支援に取り組む。</li> <li>○中学校への教員補助員配置</li> <li>○上伊那子どもサポートセンターの運営費支援</li> </ul>																							
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成 21 年度以降は増加傾向に歯止めがかかり、一定の成果が表れています。</li> <li>○不登校・不適應の傾向を持つ生徒の生活指導や教科指導を行うため、中学校への市費講師を配置しました。（5 中学校へ 9 人）</li> </ul> <p>【参考】不登校児童生徒数・割合 ( ) は%</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 20%;">H25</th> <th style="width: 20%;">H26</th> <th style="width: 20%;">H27</th> <th style="width: 20%;">H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>12 人 (0.30)</td> <td>21 人 (0.54)</td> <td>37 人 (0.94)</td> <td>10 人 (0.26)</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>49 人 (2.34)</td> <td>60 人 (2.92)</td> <td>38 人 (1.85)</td> <td>42 人 (2.04)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>61 人 (0.99)</td> <td>81 人 (1.36)</td> <td>75 人 (1.26)</td> <td>52 人 (0.88)</td> </tr> </tbody> </table>					H25	H26	H27	H28	小学校	12 人 (0.30)	21 人 (0.54)	37 人 (0.94)	10 人 (0.26)	中学校	49 人 (2.34)	60 人 (2.92)	38 人 (1.85)	42 人 (2.04)	合計	61 人 (0.99)	81 人 (1.36)	75 人 (1.26)	52 人 (0.88)
	H25	H26	H27	H28																				
小学校	12 人 (0.30)	21 人 (0.54)	37 人 (0.94)	10 人 (0.26)																				
中学校	49 人 (2.34)	60 人 (2.92)	38 人 (1.85)	42 人 (2.04)																				
合計	61 人 (0.99)	81 人 (1.36)	75 人 (1.26)	52 人 (0.88)																				
事業の課題及	【課題】早期発見、早期対応等により、不登校を長期化させない対応が必要です。																							

び方向性	【方向性】スクールカウンセラー、子どもと親の相談員等の相談・支援体制の充実を図るとともに、関係機関と連携し対応します。また、児童生徒理解に基づく不登校児童生徒の早期発見・早期対応等、新たな不登校を出さないための取組みを進めます。		
自己評価	b		

事務事業	No.15	子どもと親の相談員の配置	H28年度決算額	12,097千円
事業の目的	児童生徒やその保護者が抱える不安や、悩みの相談に当たる相談員を小中学校に配置し、児童生徒が安心して充実した学校生活を送ることができるよう支援します。必要に応じて子ども相談室、中間教室、スクールカウンセラー等と連携し、不登校、不適応傾向の児童生徒とその保護者の支援を行います。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童の話し相手・悩み相談</li> <li>○ 不登校傾向の児童の早期発見・早期対応（家庭訪問含む）</li> <li>○ 不登校児童及び不登校児童をかかえる家庭への対応等</li> <li>○ 市費相談員の配置 相談員12人を14校へ配置（2校兼務1人）</li> </ul>			
達成状況	小学校における延べ相談件数5,788件 (H25 6,584件 H26:6,829件 H27:6,659件) 中学校における延べ相談件数5,012件 (H25 5,727件 H26:7,273件 H27:4,050件)			
事業の課題及び方向性	【課題】不登校やいじめに発展する前の早期対応が大事であり、不適応児童生徒やその保護者に対する、相談支援体制の一層の充実が求められています。 【方向性】必要に応じ専門機関と連携を図り適時の支援ができるよう、相談体制の充実を図ります。			
自己評価	b			

事務事業	No.16	スクールカウンセラーの配置	H28年度決算額	1,629千円
事業の目的	児童生徒、保護者及び教職員等に対し、心理的側面から専門的援助を行い、教育相談体制の充実を図ります。			
事業内容	スクールカウンセラーの配置 全小中学校 ・県費配置4人に加え市費による配置時間の上乗せを行い、適時の相談支援に努める。			
達成状況	県から配当された相談時間では十分な対応ができなかったため、市費で上乗せし対応しました。 【参考】相談件数 小学校延べ659件 (H25:565件 H26:505件 H27:504件) 中学校延べ389件 (H25:497件 H26:601件 H27:601件) 相談時間 県費 733時間 (H25:864時間 H26:852時間 H27:811時間) 市費 294時間 (H25:284時間 H26:268.5時間 H27:439時間)			
事業の課題及び方向性	【課題】不登校等、児童生徒やその保護者への早期対応が求められています。十分な人的配置がされているとは言えない状況にあります。 【方向性】県の配当時間を増やすよう働きかけるとともに、市としても必要な時間について対応していきます。			
自己評価	b			



## 第2節 生涯学習・芸術文化の振興

### 2-1：生涯学習の振興

自然や文化、歴史、産業等地域の特徴を生かした生涯学習を推進し、年齢や職業を超えたあらゆる人々が興味を持って学ぶことのできる環境づくりを進めます。

ライフスタイルの多様化などにより、生涯学習に対するニーズや関心は、ますます高まっています。第1次伊那市総合計画に基づき平成22年度末に策定した、生涯学習の総合的な指針「生涯学習基本構想」の基本理念「共に学び、今に生かし、更に深め、未来へとつなぐ」に基づき、生涯学習事業を推進します。

#### (1)生涯学習・社会教育の推進

事務事業	No.17	市民大学・市民大学大学院	H28年度決算額	2,770千円
事業の目的	市民の生涯学習の機運を醸成し、生涯学習を推進するため、学習要求に応えた各種講座を開催します。			
事業内容	講座の実施 ・芸術文化、歴史、自然科学、健康、音楽、人権などに関する講座の開催			
達成状況	【市民大学】受講者は、各学年定員を超過している状況で、市民の学習要求の高さが現れています。この学習要求に応えるため、学生による自主運営を行いながら、幅広い分野に渡る講座内容の充実を図っています。			
	平成28年度 講座内容			
	JICA国際協力出前講座「シリアで出会った人々と生活」（講師：橋本幸江）			
	「トークと語りべの世界」（講師：美咲蘭）			
	「中川人形浄瑠璃公演」（公演：中川人形保存会）			
	信大出前講座「水害は何处で起るのか」（講師：廣内大助）			
	「野草講座」（講師：柄山祐希）			
	「伊那市の教育」～歴史と文化を大切にした人を育むまちづくり～（講師：北原秀樹 副学長）			
	「市政よもやま話」（講師：白鳥孝 学長）			
	「秋葉街道の旅日記」～高倉健のご先祖 伊那路を歩く～（講師：堀井正子）			
	「心と体のストレッチ」（講師：山岸洋子）			
	「小麦色の天使」上映会と後藤監督のトーク			
	「健康導引養生功」（講師：佐藤省三） ほか15講座 計26講座			
	【参考】第十八期後期 学生数131人 12講座 第十九期前期 学生数144人 14講座			
【市民大学大学院】市民大学の修了者を対象に、さらに学習を深めていただく専門的な学びの場として2つのコースを用意し、第二期後半及び第三期前半を開講しました。伊那市の発展のため行動できる地域のリーダーとなる人材の育成を目指します。				
平成28年度 研究内容				
歴史コース : 高遠の歴史と風土、人の成長と保科正之公 ほか				
自然科学コース：里山の植物、食用になる植物、伊那谷の絶滅危惧種 ほか				
【参考】第二期後期 歴史コース 10人4講座 自然科学コース 5人5講座 第三期前期 歴史コース 7人6講座 自然科学コース 5人5講座				
事業の課題及び方向性	【課題】変化する社会に適応できる力をつけるために、受講者の学習要求を的確にとらえた魅力ある講座運営を行う必要があります。修了者の地域貢献の推進が必要です。 【方向性】受講生による自主運営を基本に、魅力ある講座等を企画運営します。また、学習の成果が地域での活動に活かせるように促します。			
自己評価	b			

事務事業	No.1 8	桜大学	H28 年度決算額	455 千円
事業の目的	生活にうるおいと生きがいを与え人生を心豊かに生きるため、生涯学習を推進します。			
事業内容	講座の開催（4月29日～3月12日 会場：やますそ）			
達成状況	公民館活動のひとつとして実施され、38回目を迎えた伝統ある住民の学習の場です。			
	平成28年度講座内容（講師）			
	「歴史がドラマになるまで」（歴史時代作家 仁志 耕一郎 氏）			
	「命の尊さ ～二胡から奏でる幸せへの扉～」（二胡奏者・医学博士 姜 暁艶 氏）			
	「高遠藩時代の美意識を求めて～歴史資料にみる特色～」（伊那市教育委員会 大澤佳寿子 氏）			
事業の課題及び方向性	【参考】受講者数550人（H24:600人 H25:670人 H26:610人 H27:640人）			
	【課題】講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。 【方向性】長年開催され、高遠町地域における生涯学習の場として定着しており、合併後、市民大学との共催講座なども実施し、伊那、長谷地域からの参加者も増えています。地域に縁がある方、地域について研究されている方などを講師に招き、地域の特性を生かした運営を行います。また、経費についても工夫しながら事業を進めます。			
自己評価	a			

事務事業	No.1 9	長谷生涯学習講演会	H28 年度決算額	465 千円
事業の目的	地域住民の生活及び文化、教養の向上を図るため、生涯学習の場を提供します。			
事業内容	講演会の開催（11月12日 会場：長谷公民館 講堂） ・公民館・小中学校・小中学校PTAが共催し、著名な講師を招き講演会を開催しています。			
達成状況	平成28年度 講演 出会い、ふれあい、人の味（俳優 八名信夫 氏） 元プロ野球選手、悪役俳優、CM出演、ボランティア活動など豊富な経験や知識に基づく自身の考えや、人への思いやり、子供の大切さなどエピソードを交えた飾らない語り口で、聴いている人の心に響くご講演をいただいた。 参加者アンケートからは「大変良かった」が100%、「次回も八名さんの話を聴きたい」など大変好評であった。			
	【参考】受講者数80人（H26:145人 H27:104人）			
事業の課題及び方向性	【課題】同日に長谷地域において移住フォーラムが開催され、参加者に影響が出ました。イベント開催に関しては各機関と連絡を取り合い事業がなるべく重ならないよう配慮が必要と思われます。 講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。 【方向性】住民が質の高い文化に触れる貴重な機会として、今後も工夫しながら進めます。			
自己評価	b			

## (2) 公民館活動の推進

事務事業	No.20	集会施設整備事業補助	H28年度決算額	2,901千円	
事業の目的	地域住民の福祉の向上、コミュニティの推進、災害時の拠点の確保などに資するため、集会施設等を整備する費用の一部を補助します。				
事業内容	伊那市集会施設整備事業補助金交付要綱に基づき、集会施設の新築・増築・改築及び改修工事の補助金を交付します。				
	・対象施設及び交付基準				
	施設区分	事業区分	補助要件等		
	公民館の分館 又は区が管理 運営する集会 施設	新築	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高750万円まで 最低事業費 100万円以上		
		増築・改築・ 改修	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高120万円まで 最低事業費 50万円以上		
		水洗化・ 耐震補強	補助率 工事費の30%以内 補助限度額 最高150万円まで 最低事業費 50万円以上		
		外構整備・ 舗装	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高120万円まで 最低事業費 50万円以上		
	町内会・常会・ 組等が管理運 営する集会施 設	新築・増築	対象外		
		改築・改修	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高50万円まで 最低事業費 25万円以上		
		水洗化・ 耐震補強	補助率 工事費の30%以内 補助限度額 最高60万円まで 最低事業費 25万円以上		
外構整備・ 舗装		補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高50万円まで 最低事業費 25万円以上			
達成状況	○集会施設の公共性を考慮し、対象工事の経費の一部を補助しました。 【参考】補助施設数 9件 2,901千円 (H27: 8件 4,705千円) ○平成23年度から、合併前の3市町村の交付要綱を統一した、新要綱を運用しています。				
事業の課題及び方向性	【課題】地元要望がある施設については計画的に改築等を進める必要があります。 また、他の同様な補助事業主管課との調整が必要です。 【方向性】集会施設等は、地域住民の福祉の向上、コミュニティ活動の推進、災害時の拠点の確保などに資する事業であるため、予算の範囲内で計画的に費用の一部を補助します。				
自己評価	b				

事務事業	No.2 1	公民館建設（施設管理）	H28 年度決算額	397,937 千円
事業の目的	地域の生涯学習の拠点整備や地域コミュニティの形成など地域づくりを推進するため、老朽化した公民館を計画的に建て替えます。 また、公民館の施設維持に必要な改修等を行いません。			
事業内容	○施設改築 公民館の建て替え整備について順次計画を策定 ○施設改修等			
達成状況	○本年度は、実施計画に沿って、手良公民館の建設を行いました。 手良公民館の建て替え、計画を具体化しました。			
事業の課題及び方向性	【課題】老朽化した西春近公民館の整備を検討する必要があります。 【方向性】有利な財源を確保しながら計画的に整備を進めます。			
自己評価	a			

事務事業	No.2 2	公民館共同事業	H28 年度決算額	7,040 千円
事業の目的	青少年の健全育成と家庭教育の充実を全市的に図るため、未就園・未就学の子ども、小学生とその家庭などを対象に、9 公民館が共同して子ども向けの事業を実施します。 地域の公民館分館活動を支援するとともに、地域理解を深めるため「ふるさと講座」を開催し、公民館活動への理解を深めてもらうため広報誌を発行します。			
事業内容	○分館活動委託事業の実施 ○「公民館報いな」の発行			
達成状況	各事業への参加者は多く、集団の中で異年齢の子どもたちは「体験」を通して多くを学び、それぞれの事業目的が達成されています。 ・「ふるさと講座」（美篤、西箕輪 180 人） ・84 分館に活動委託 ・館報毎月発行第 451 号～第 462 号			
事業の課題及び方向性	【課題】児童の居場所づくりや、「体験」「子ども主体の活動」の場としてニーズが高い事業であるため、地域や関係団体と連携し、充実を図る必要があります。 また、連携の目的や効果を検討し、事業の企画や運営を行う必要があります。 【方向性】縦社会の再構築を願って「子どもが集う公民館」を重点テーマに、参加規模が大きな事業について公民館全体で共同事業として取り組みます。また、支援ボランティアの確保を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.23	公民館事業	H28年度決算額	110,168千円
事業の目的	生涯学習を通じた生きがいづくりや地域づくりを推進するため、市内9公民館において、教室・講座・イベントなどを開催します。			
事業内容	高齢者、女性、成人、青少年、家庭など様々な分野において教室・講座・イベントなどを開催			
達成状況	各地域の特色や住民要望に応えた公民館活動が行なわれ、生涯学習の推進と地域づくりの役割を果たしています。			
	公民館	平成28年度活動内容(特徴的なもの)		
	伊那	夏休みおいで塾、らっこルーム、女性教室、伊那おやじの会、高齢者教室、陶芸教室、元旦ジョギング、野草講座、探鳥会など		
	富  県	夏休み・富県子どもおいで塾、子ども公民館書道教室、トムキャロット、のどか学級、高鳥谷山区民ハイキング、生きもの探検隊など		
	美  篤	親子青空教室、「芽と実」読み聞かせ、場広山ハイキング、すくすくベビー、母から娘へ伝えたい味講習会、童謡・唱歌の集いなど		
	手  良	わいわいくらぶ、俳句教室、手良おいで塾、野草講座、四ツ葉の会など		
	東春近	子ども体験教室、楽生学級、女性教室、くれよんクラブ、チャレンジおっとこ塾、童謡唱歌を楽しむ会、森の音楽祭、区民ハイキングなど		
	西箕輪	わんぱく親子塾、通学合宿、脳イキイキ出前講座、夏・秋・冬の自然観察会、高原マラソン大会、星空観察会、紅葉教室、料理教室など		
	西春近	西春近てらこや塾、出前講座、父居屋の会、かるがも学級、女論の会、万年青の会、女性トリムバレーボール大会、文化祭、趣味の会発表会など		
	高  遠	進徳館夏の学校、高遠中学校通学合宿、美術館・歴史博物館を訪ねて、さくらんぼきつず、桜大学講座、そば打ち講座、ハーモニカ教室、南アルプスジオパーク講座など		
	長  谷	はせっこサマースクール、入野谷講座、戸台の化石学習会、ソフトテニス教室、くじらくらぶ、女性教室ココロとカラダの栄養補給、スラックラインなど		
共  同	世代間交流事業(伊那、手良)、キッズ王国			
	【参考】講座・教室・イベントなど公民館利用者数 170,318人 (H26:161,563人、H27:162,646人)			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】生活に結びついた公民館活動を通して、生涯学習と地域づくりを進める必要があります。</p> <p>【方向性】(1)まなぶ…いつでも、どこでも、だれもが学ぶことができ、学び合い、育ち合い、高めあう機会と場を提供します。</p> <p>(2)つなぐ…出会い、ふれあい、交わりを大切に、仲間づくりと地域の交流を進めます。</p> <p>(3)つくる…地域課題に取り組み、生き生きとした地域づくりと地域文化の伝承と創造を目指します。</p>			
自己評価	b			

### (3) 図書館の充実

事務事業	No.24	蔵書管理	H28年度決算額	14,171千円																																																			
事業の目的	市民が自主的な学習を行う「知の拠点」となるため、図書や情報資料の提供の充実を図ります。																																																						
事業内容	○図書館資料の管理（選書、発注、装備・登録・修理、除籍） ○書架配置換え・案内表示の更新 ○図書館システムの維持・管理																																																						
達成状況	<p>優良図書の整備に努めるとともに、市民の知の拠点として定着しています。</p> <p>○平成28年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・システムデータの更新処理を確実にし、適正な運用に努めました。（伊那・高遠）</li> <li>・諸資料の購入・整備、利用者への貸出・閲覧を行いました。（伊那・高遠）</li> <li>・資料を有効活用するため、テーマ展示を定期的に行いました。（伊那・高遠）</li> </ul> <p><b>【参考】</b> 蔵書数は図書のみ、（ ）内H27</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>蔵書冊数</th> <th>貸出冊数</th> <th>登録者数（個人）</th> <th>利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那図書館</td> <td>217,518 (214,646)</td> <td>353,957 (349,948)</td> <td>53,428 (51,131)</td> <td>74,805 (73,812)</td> </tr> <tr> <td>高遠町図書館</td> <td>94,937 (93,981)</td> <td>45,907 (48,812)</td> <td>6,529 (6,307)</td> <td>9,769 (9,979)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・他市町村比較表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人口一人当たり 蔵書冊数（冊）</th> <th>人口一人当たり 貸出冊数（冊）</th> <th>登録率％ （登録者数／人口）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那市</td> <td>5.8</td> <td>7.3</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>駒ヶ根市</td> <td>5.4</td> <td>6.9</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>辰野町</td> <td>4.3</td> <td>4.2</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>箕輪町</td> <td>2.6</td> <td>3.7</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>飯島町</td> <td>8.1</td> <td>5.0</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>南箕輪村</td> <td>5.8</td> <td>8.3</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>中川村</td> <td>13.2</td> <td>6.3</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>宮田村</td> <td>6.9</td> <td>5.1</td> <td>78</td> </tr> </tbody> </table>				名称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数	伊那図書館	217,518 (214,646)	353,957 (349,948)	53,428 (51,131)	74,805 (73,812)	高遠町図書館	94,937 (93,981)	45,907 (48,812)	6,529 (6,307)	9,769 (9,979)		人口一人当たり 蔵書冊数（冊）	人口一人当たり 貸出冊数（冊）	登録率％ （登録者数／人口）	伊那市	5.8	7.3	91	駒ヶ根市	5.4	6.9	62	辰野町	4.3	4.2	84	箕輪町	2.6	3.7	55	飯島町	8.1	5.0	96	南箕輪村	5.8	8.3	57	中川村	13.2	6.3	107	宮田村	6.9	5.1	78
名称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数																																																			
伊那図書館	217,518 (214,646)	353,957 (349,948)	53,428 (51,131)	74,805 (73,812)																																																			
高遠町図書館	94,937 (93,981)	45,907 (48,812)	6,529 (6,307)	9,769 (9,979)																																																			
	人口一人当たり 蔵書冊数（冊）	人口一人当たり 貸出冊数（冊）	登録率％ （登録者数／人口）																																																				
伊那市	5.8	7.3	91																																																				
駒ヶ根市	5.4	6.9	62																																																				
辰野町	4.3	4.2	84																																																				
箕輪町	2.6	3.7	55																																																				
飯島町	8.1	5.0	96																																																				
南箕輪村	5.8	8.3	57																																																				
中川村	13.2	6.3	107																																																				
宮田村	6.9	5.1	78																																																				
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 市民の「知の拠点」として、多様化する市民の知的ニーズに応えるとともに図書や図書館を取り巻く社会状況の変化に対応していく必要があります。</p> <p><b>【方向性】</b> 調査・研究・資料の収集整理をし、情報提供を積極的に行ないます。また、イベントなどを通して、親しみやすい図書館になるよう努めます。</p>																																																						
自己評価	b																																																						



(4)生涯学習センターの充実

事務事業	No.27	生涯学習センター	H28年度決算額	87,849千円																																
事業の目的	市民に生涯学習の機会を提供するとともに、中心市街地の活性化と活力あるまちづくりを推進するため、生涯学習センターを適正かつ円滑に管理運営します。																																			
事業内容	○施設管理 生涯学習センター部分は直営で管理し、ビル共用部分は共益費を負担して「いなっせ管理組合」が管理 ○貸し館業務 ○自主事業の運営																																			
達成状況	利用者数が減少傾向にあるものの、自主事業などに多数の参加があり、貸し館としての役割も高く、中心市街地の誘客に繋がっています。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">平成28年度 自主事業 (内容)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術文化体験教室 (季節の料理、クラシックバレエ、ゆっくり学ぶ iPad ほか)</td> <td>22講座</td> </tr> <tr> <td>第13回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、展示の部)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回伊那谷伝統文化公演 (日本各地の伝統芸能 田楽座公演)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>音楽公演事業 (「ヴォカペラヴェッティンゲン合唱団日本公演」ほか)</td> <td>7事業</td> </tr> <tr> <td>四季のコンサート (「春を呼ぶフルートアンサンブル」ほか)</td> <td>7事業</td> </tr> <tr> <td>青少年音楽事業 (「第11回 小さな芽コンサート」ほか)</td> <td>4事業</td> </tr> <tr> <td>大野利可 篠笛講座 飯島瀬里香 チェロ教室</td> <td></td> </tr> <tr> <td>軒下コンサート (楠州流聖楠会 ほか)</td> <td>1団体</td> </tr> <tr> <td>語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級・上級 韓国語講座)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自主企画教室 (お菓子づくり講座ほか)</td> <td>16講座</td> </tr> <tr> <td>自主企画イベント (春休み子ども人形劇場)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自主講座参加者人数</td> <td>379人 (H26:219、H27:311人)</td> </tr> <tr> <td>【貸し館】利用室数</td> <td>9,244コマ (H26:9,679、H27:9,814コマ)</td> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>148,196人 (H26:154,600、H27:155,119人)</td> </tr> <tr> <td>各室平均稼働率</td> <td>55.8% (H26:56.7、H27:57.9%)</td> </tr> </tbody> </table>				平成28年度 自主事業 (内容)		芸術文化体験教室 (季節の料理、クラシックバレエ、ゆっくり学ぶ iPad ほか)	22講座	第13回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、展示の部)		第12回伊那谷伝統文化公演 (日本各地の伝統芸能 田楽座公演)		音楽公演事業 (「ヴォカペラヴェッティンゲン合唱団日本公演」ほか)	7事業	四季のコンサート (「春を呼ぶフルートアンサンブル」ほか)	7事業	青少年音楽事業 (「第11回 小さな芽コンサート」ほか)	4事業	大野利可 篠笛講座 飯島瀬里香 チェロ教室		軒下コンサート (楠州流聖楠会 ほか)	1団体	語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級・上級 韓国語講座)		自主企画教室 (お菓子づくり講座ほか)	16講座	自主企画イベント (春休み子ども人形劇場)		自主講座参加者人数	379人 (H26:219、H27:311人)	【貸し館】利用室数	9,244コマ (H26:9,679、H27:9,814コマ)	利用者数	148,196人 (H26:154,600、H27:155,119人)	各室平均稼働率	55.8% (H26:56.7、H27:57.9%)
平成28年度 自主事業 (内容)																																				
芸術文化体験教室 (季節の料理、クラシックバレエ、ゆっくり学ぶ iPad ほか)	22講座																																			
第13回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、展示の部)																																				
第12回伊那谷伝統文化公演 (日本各地の伝統芸能 田楽座公演)																																				
音楽公演事業 (「ヴォカペラヴェッティンゲン合唱団日本公演」ほか)	7事業																																			
四季のコンサート (「春を呼ぶフルートアンサンブル」ほか)	7事業																																			
青少年音楽事業 (「第11回 小さな芽コンサート」ほか)	4事業																																			
大野利可 篠笛講座 飯島瀬里香 チェロ教室																																				
軒下コンサート (楠州流聖楠会 ほか)	1団体																																			
語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級・上級 韓国語講座)																																				
自主企画教室 (お菓子づくり講座ほか)	16講座																																			
自主企画イベント (春休み子ども人形劇場)																																				
自主講座参加者人数	379人 (H26:219、H27:311人)																																			
【貸し館】利用室数	9,244コマ (H26:9,679、H27:9,814コマ)																																			
利用者数	148,196人 (H26:154,600、H27:155,119人)																																			
各室平均稼働率	55.8% (H26:56.7、H27:57.9%)																																			
事業の課題及び方向性	【課題】学習及び文化活動を通し市民相互の交流を促進するとともに、中心市街地の活性化に効果のある施設の運用について、更に検討する必要があります。 【方向性】利用者ニーズにあった自主事業を推進します。また、開館日数、開館時間など利用者の利便を図るとともに、利用者の意見を反映させることができる管理運営方法について検討を進めます。																																			
自己評価	b																																			



理科読  
(伊那図書館)



コーラスフェスティバル  
(生涯学習センター)



(5) 人権同和教育の推進

事務事業	No.28	社会人権同和教育	H28年度決算額	2,573千円
事業の目的	人権問題に対する理解を促進し、全ての人の基本的人権を尊重するため、人権問題について学習する機会を提供します。			
事業内容	人権問題についての講演会、巡回講座、学習講座を開催 ・同和問題だけでなく、いじめなどの問題も含め、人権問題について学習する機会を提供します。 ・人権同和教育講座・学級などの開催 ・人権同和教育指導案集の作成			
達成状況	公民館等と連携して開催している講座・学級が定着し、幅広い世代で人権問題に対する理解が図られています。 <b>【参考】</b> 講演会 3回・995人 (H26: 3回・878人、H27: 3回・1,305人) 公民館人権講座 12回・366人 (H26: 11回・378人、H27: 11回・343人) 人権同和教育学級 現在休会中 (平成25年度から) 人権同和教育指導案集 110部作成 (各小中学校・公民館等へ配布)			
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> 同和対策関係特別措置法は失効しましたが、基本的人権を尊重し、同和問題のみならず、「いじめ」など全ての差別を防止する必要があります。 <b>【方向性】</b> 市民の重要課題として、人権教育の場や情報の提供など、啓発活動を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.29	学校人権同和教育	H28年度決算額	1,351千円
事業の目的	人権教育はすべての教育の基本という理念に立ち、各教科、道徳、総合的な活動の時間、特別活動などの特質に応じて、教育活動全体を通じて計画的に推進し、人権感覚を培い、人権課題を自ら解決する意欲と実践力を持つ子どもたちを育てる。			
事業内容	○ 伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催 (委員長・副委員長・委員各学校1名) ○ 副読本「あけぼの」配布 (小学1・3・5年生、中学1年生) (学校据置) ○ 人権教育講演会等の実施			
達成状況	○ 全ての小中学校において、それぞれの地域性、課題等の実態に沿った人権同和教育計画を立て、全教育活動を通じて実践した。 ○ 伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催 4回 学社連携による推進会議 (2回) 職員研修会、人権同和教育研究授業参観・授業研究会開催 ○ 人権同和教育副読本「あけぼの」を小学校1・3・5年生、中学校1年生に配布し活用 ○ 人権教育プログラムCAPワークショップを3小学校で実施 (H28: 児童142人 教職員・保護者29人 H27: 児童242人 教職員88人)			
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> 経済状況の悪化、いじめ、児童虐待等子どもたちを取り巻く環境は深刻です。また、子どもたちのコミュニケーション力、自尊感情の低下等が懸念されています。 <b>【方向性】</b> 教職員が豊かな人権感覚を持ち、人権尊重の理念に基づいた人権教育を実践する力量を高めるよう教職員研修の充実に努めるとともに、子どもたちの実体験の機会を増やす等の取り組みを通じ豊かな人間性の育成に努めます。			
自己評価	b			

## 2-2：青少年健全育成と家庭教育の充実

青少年の健全育成に向けて、地域で青少年を育てる環境づくりを進め、あわせて学校、行政、地域一体となった家庭教育の充実策に取り組みます。

### (1) 青少年の健全育成

事務事業	No.30	学童クラブ	H28年度決算額	58,303千円
事業の目的	下校後、保護者が就労などにより不在のため、適切な保護が受けられない児童の保護及び健全育成を図ります。			
事業内容	学童クラブの設置 伊那小(2クラブ)、伊那東小(3クラブ)、伊那北小(2クラブ)、伊那西小、富巣小、新山小、美篤小(2クラブ)、手良小、東春近小(2クラブ)、西箕輪小(2クラブ)、西春近北小、西春近南小、高遠小、長谷小の14校に開所(高遠北小は設置済みであるが、利用者が少なく休止中)			
達成状況	入所者が多い伊那東小は3クラブ、伊那小・伊那北小・美篤小学童・東春近小・西箕輪小学童クラブは2クラブ体制で対応しています。 【参考】学童クラブ21箇所 (H26:18箇所、H27:19箇所) 入所者数582人 (H25:519、H26:522人 H27:528人) クラブ設置小学校数/小学校数100% (H26:100% H27:100%) 入所者数/児童数15.3% (H26:13.1% H27:13.8%)			
事業の課題及び方向性	【課題】保護者の就労支援や児童の健全育成のためニーズが高まっています。 【方向性】大規模クラブの解消(分割)や老朽・狭隘施設の整備、開所日数の拡充、指導員の確保など学校や地域等と連携を図りながら課題を解決し、事業の充実を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.31	少年補導委員会・少年補導センター	H28年度決算額	1,007千円
事業の目的	青少年の健全育成と非行防止を図るため、関係団体と連携を図り、街頭補導などを実施します。			
事業内容	少年補導センター及び補導委員の配置 ・少年補導センターの運営 ・補導委員は、55人を11班に編成し、毎週土曜日と第3日曜日に街頭補導を実施するとともに、学校の長期休暇中は特別街頭補導を実施(補導日数81日) ・補導の手引きの作成			
達成状況	街頭補導による指導件数は減少傾向にあり、補導活動が非行防止の一助となっています。この指導件数の減少を踏まえ、指導方針について検討を行いました。 【参考】補導活動延べ人員354人 (H26:383人、H27:361人) 声かけ件数444件 (H27:233件) H27より声かけ件数をカウント 指導件数0件 (H26:16件、H27:12件)			
事業の課題及び方向性	【課題】特にソーシャルメディアに関連し、子どもを非行へ誘惑する要因が増えるとともに、子どもの規範意識が薄くなっています。 【方向性】少年を取り巻く環境は多様化しており、少年の健全育成を図るため、引き続き補導委員会を中心に地域が子どもを見守る体制づくりを進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.32	青少年育成対策	H28年度決算額	2,711千円
事業の目的	青少年の健全育成事業を推進するため、各地区34子ども会・育成会が行う各種事業を支援します。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地区における青少年の健全育成及び家庭教育推進活動</li> <li>○子どもの安全、有害環境の排除</li> <li>○よりよい教育環境推進協議会などへ参画</li> <li>○わんぱく広場の開催</li> <li>○情報紙「えがお」の発行</li> </ul>			
達成状況	<p>子どもにかかわる組織として地域に定着しており、各地域の実情に応じた活動を実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平成28年度各地区育成会実施事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>有害環境チェック活動（7,2月）、「信州あいさつ運動」への取組、魚つかみ大会、飯盒炊飯・キャンプ、どんど焼き、子ども神輿、天神様、まんど作り、しめ縄作り、子ども球技大会、夏祭り・花火大会、その他に子ども映画会、クリスマス会、資源回収、朝の清掃等</li> </ul> </li> </ul>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 地域全体で子どもを育てるという環境整備が求められています。</p> <p><b>【方向性】</b> 子ども会・育成会は、地区の青少年健全育成の中心として大きな役割を担っています。しかし、地区によっては、過疎化、高齢化による組織的な問題も生じているため、委託料について見直しを進めます。</p>			
自己評価	b			



伊那市よりよい教育環境推進連絡会

事務事業	No.33	成人式	H28年度決算額	1,057千円
事業の目的	新成人を祝い、成人としての意識の高揚を図るため、式典を執り行います。			
事業内容	成人式を公民館単位の10地区で実施			
達成状況	平成21年度から伊那地域においても公民館単位での実施に変更しました。 【参考】( )内H27			
	地区	実施日	対象者	出席者 出席率
	竜西	8月15日	146人 (153人)	107人 (118人) 73.3% (77.1%)
	竜東	8月15日	197人 (249人)	134人 (152人) 68.0% (61.0%)
	富県	8月15日	24人 (28人)	19人 (21人) 79.2% (75.0%)
	美篁	8月15日	63人 (74人)	56人 (56人) 88.9% (75.7%)
	手良	8月14日	21人 (28人)	13人 (24人) 61.9% (85.7%)
	東春近	8月15日	58人 (69人)	43人 (56人) 74.1% (81.2%)
	西箕輪	8月15日	69人 (75人)	43人 (41人) 62.3% (54.7%)
	西春近	8月15日	62人 (67人)	49人 (60人) 79.0% (89.6%)
	高遠町地区	1月2日	47人 (46人)	32人 (39人) 68.1% (84.8%)
	長谷地区	1月1日	21人 (13人)	20人 (11人) 95.2% (84.6%)
	※伊那地区(竜西～西春近)		計 72.5% (H26: 68.7%、H27: 71.1%)	
			合計 72.9% (H26: 70.7%、H27: 72.1%)	
事業の課題及び方向性	<p>【課題】開催方法、時期等を含めて、新成人にとってより良い成人式とは何かを検討し、実施する。</p> <p>【方向性】「伊那市成人式のあり方検討委員会」の結果からこれまでどおり分散形式とし、伊那市成人式として一体感を持てるよう、記念品、パンフレット等できることから統一していく。</p>			
自己評価	b			



伊那市成人式(竜西地区)



平成28年度記念品(印鑑ケース)

## 2-3: 文化の振興

文化芸術施設の整備及び充実を図り、文化芸術の鑑賞機会の充実や意識の高揚などを通じて、市民の文化芸術活動の振興を図るとともに、新しい文化の創造を推進します。

### (1) 文化事業などの充実

事務事業	No.34	伊澤修二記念音楽祭	H28年度決算額	7,374千円
事業の目的	伊澤修二先生を顕彰するとともに、東京藝術大学との交流を通じ、地域文化の振興を図ります。			
事業内容	<p>○伊澤修二記念音楽祭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高遠町出身で東京藝術大学の前身である東京音楽学校の初代校長を務めた伊澤修二先生を顕彰する音楽祭。昭和62年の東京藝術大学創立百周年を機に、旧高遠町で第1回が開催され、秋恒例の音楽祭となっています。</li> </ul> <p>○東京藝術大学学生による吹奏楽及び合唱指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内中学校・高等学校の吹奏楽、合唱部員等を対象に、東京藝術大学学生を講師として行われる講習会を開催します。</li> </ul> <p>○30周年記念事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽祭30周年を記念して、より多くの市民が「伊澤修二」や「音楽」に関わることができる事業を実施しました。</li> </ul>			
達成状況	東京藝術大学との音楽交流や日頃の練習の成果を発表する機会の創出が図られました。藝大関係者を含む音楽祭関係者同士がより交流を深めました。また、30周年記念事業として、小中学校アウトリーチ（参加者1,431人）、ジュニアオーケストラ共演（出演者14人）、記念植樹、記念講演&ミニコンサート（参加者140人）を実施し、多くの小中学生、一般の皆さんが音楽祭への関心を深めました。 【参考】音楽祭入場者数2,150人（H26:2,200人、H27:2,200人）			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】伊澤修二先生を縁とする東京藝術大学とのつながりを大切に、地域文化の振興に活かす必要があります。</p> <p>【方向性】東京藝術大学の優れた音楽に触れ、また市内中学生が指導を受けるよい機会になっています。伊那市固有の音楽祭として発展させるため、積極的なPRを図っていきます。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.35	い〜な音楽祭	H28年度決算額	321千円
事業の目的	コーラスグループを中心に合唱の発表機会を提供し、音楽を通じた相互交流を深めます。			
事業内容	<p>○い〜な音楽祭2016開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各音楽団体の代表者により構成された実行委員会が運営し、一般や学校関係団体から参加を募り、一般市民の入場も呼びかけて県伊那文化会館で開催される市内合唱グループの発表会</li> </ul>			
達成状況	実行委員自らの企画運営により、互いの参加団体が協力し合いながら、費用をかけずに充実した音楽祭の開催を図ることができました。 【参考】参加団体数25団体（H26:24団体、H27:24団体）			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】身近な発表の場として、参加しやすい運営に努める必要があります。参加団体の増加に対応し、運営方法の検討を進める必要があります。</p> <p>【方向性】今後も息の長い音楽祭となるよう、実行委員会の組織の充実と事業内容の充実を図ります。25年度から参加団体が順番で事務局を務めています。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.36	市民音楽祭	H28年度決算額	800千円
事業の目的	市民に良質な音楽と発表する場を提供するため、市民が企画し参加する音楽祭を開催します。			
事業内容	<p>①ふるさと芸能祭 ②手づくりの演奏会 ③生涯学習センターイベントの3事業を実施します。①と②は隔年で実施します。</p> <p>平成25年度事業 伊那節大会2013/ふるさと芸能祭  平成26年度事業 手づくりの演奏会「カルミナ・ブラーナ」  平成27年度事業 伊那節大会2015/ふるさと芸能祭  手づくりの演奏会「第九演奏会」(開催準備補助)  平成28年度事業 手づくりの演奏会「第九演奏会」</p>			
達成状況	内容などによって参加者にバラつきはありますが、良質な音楽を提供する音楽祭として定着してきています。市民が企画、出演する手づくりの音楽祭です。 【参考】手づくりの演奏会「第九演奏会」 入場者1,200人			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】市民音楽祭の目的である「手作り」「良質な音楽の提供」を基本に、特色ある運営をする必要があります。</p> <p>【方向性】市民が企画し、参加する音楽祭、良質な音楽の提供を進めます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.37	千両千両井月さんまつり 信州伊那井月俳句大会	H28年度決算額	63千円
事業の目的	伊那市を終焉の地とした漂泊の俳人井上井月を偲び、末永く顕彰するとともに、日本の伝統文化である俳句に親しみ、楽しんでもらうため、俳句大会を開催します。 また、俳句愛好者以外にも井月を広め、地域活性化に繋げることを目的に、大会にあわせ、井上井月顕彰会と連携し、千両千両井月さんまつりを開催します。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>第25回信州伊那井月俳句大会の開催 実行委員会を中心に俳句大会を企画・開催し、事前に募集した小中学生及び一般からの投句の中から、入賞作品の発表・表彰を行います。</li> <li>資料映画「伊那の勘太郎」上映・虚無僧尺八公演、シンポジウム「井月と伊那の勘太郎」「井月と山頭火」、井月関連展示、物販ほか</li> </ul>			
達成状況	井月愛好者、俳句愛好者等により構成するまつり実行委員会と、俳句大会実行委員会が協働し、『まつり』要素を取り入れて実施した。開催経費については、「地域発元気づくり支援金」の助成を受けたことにより、投句料と合わせて大半を実行委員会で賄うことができた。 【参考】俳句大会 投句数6,183句 (一般1,656句、小中学生4,527句) (H26:5,440句、H27:5,662句) 一般参加者数200人 (H26:200人、H27:200人) その他まつり 映画・尺八 230人、シンポジウム200人ほか			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】俳人井上井月を顕彰するとともに、俳句に親しみ、俳句の普及を図る必要があります。まつりとしての事業内容の見直し、広報等、参加者を増やす方策が必要です。民間団体主体の事業運営には課題があり、今後の運営主体の検討が必要です。</p> <p>【方向性】井上井月、俳句を通じて全国的にアピールできる事業であるため、開催方法や内容を検討しながら更に発展させる必要があります。俳句以外の面からも井月に親しむことのできる「まつり」の民間主導による運営の可能性を検討します。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.38	進徳館の日	H28年度決算額	434千円
事業の目的	進徳館教育から先人の遺訓を学び、その精神を現代に活かして歴史と文化のまち伊那市へ一層の発展を図ります。			
事業内容	○式典、基調講演、学習発表など（5月28日 会場：進徳館、高遠閣） ○剣道大会（5月28日 会場：高遠中学校体育館）			
達成状況	<p>実学重視の藩校「進徳館」の学びの心に触れ、藩校教育の伝統や精神を継承し、地域の生涯学習の振興を図る事業として地域に定着しています。また、旧高遠藩主をはじめ、藩関係者との交流の機会ともなっている。</p> <p>○平成28年度 第22回進徳館の日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五聖像に礼拝</li> <li>・式典</li> <li>・基調講話 高遠北小学校 浦野 博校長「国の秀に生れいでし学び舎、道はるかなり直に歩まむ」</li> <li>・実践報告 高遠北小学校 中島 元博教諭「暮らしのなかの食・北小みんなで高遠そば作り」</li> <li>・学習報告 高遠高等学校 芸術コース音楽専攻の皆さん 合唱「浜辺の歌」「箱根八里」「落葉松」</li> <li>・基調講演「伊澤修二はヨーロッパ音楽の導入者なのか？ー日本・音楽・「みんなのうた」」 講師 奥中 康人氏（静岡文化芸術大学教授）</li> </ul> <p>【参考】参加人数150人（H25:200人 H26:150人 H27:150人）</p> <p>○平成28年度 第18回進徳館の日記念剣道大会 【参考】参加チーム数39チーム（H25:31チーム H26:35チーム H27:35チーム）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】藩校「進徳館」の藩校教育の伝統や精神を継承し、その精神を現代に生かした事業展開を行なう必要があります。</p> <p>【方向性】進徳館教育の精神や優れた点を学び、現代社会に対応する方策を創造するとともに、広くPRすることによりこの事業の活用と面的な拡大を図ります。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.39	伊那能	H28年度決算額	475千円
事業の目的	日本の伝統芸能である「能」と「狂言」に親しむ機会を提供します。			
事業内容	「能」「狂言」公演の開催 ・平成2年に第1回を民間との協働により開催し、伊那市と県伊那文化会館が隔年で支援し、中学生の希望者を無料で招待しています。			
達成状況	<p>演目などにより入場者数の増減はありますが、日本の伝統芸能である「能」と「狂言」に親しむ良い機会となっています。教職員向けの体験講座も開催しました。</p> <p>○第25回伊那能 【参考】入場者数 610人（H26:630人、H27:560人） 教職員向け体験講座 30人 負担金 475千円（H26:475千円、H27:0円隔年負担のため）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】日本の伝統芸能である「能」と「狂言」を鑑賞できる貴重な機会であり、継続のためには、分かりやすい内容で底辺の拡大を図る必要があります。</p> <p>【方向性】実施主体である民間との協働を基本に、分かりやすいものになるように鑑賞講座、ワークショップなどを取り入れながら、県伊那文化会館とも連携し継続開催に努めます。</p>			
自己評価	b			

(2)博物館などの整備・活用

事務事業	No.40	創造館	H28年度決算額	47,022千円																
事業の目的	市民の憩いの場及び生涯学習の場として、施設の管理・運営を行うとともに、「縄文から宇宙まで」をテーマに自然科学、宇宙、考古、歴史・民俗、芸術、環境などに関するユニークで独創的な事業を実施し、夢多き未来に向かって人類の進化の礎である「創造」を実践します。																			
事業内容	<input type="radio"/> 自主事業 ・講演会、講座等の開催 <input type="radio"/> 展示関係 ・常設展、企画展3回、特別展4回 <input type="radio"/> 貸館業務 ・学習室、体験教室1、体験教室2、講堂 <input type="radio"/> 資料の保管		マスコットキャラクター 「つくルン」																	
達成状況	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">平成28年度 事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【講演会】</td> <td>開館6周年記念講演会 参加者 24人</td> </tr> <tr> <td>【講座等】</td> <td>宇宙の学校(5回)、地球の学校(5回)、夏の体験教室、秋冬の体験教室、学校単位での見学受け入れ・縄文体験教室 6講座 17回 2校 延参加者 697人</td> </tr> <tr> <td>【常設展示】</td> <td>神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器(国重要文化財)</td> </tr> <tr> <td>【企画展展示】</td> <td>第17回企画展(伊那市創造館と秘密の書庫) 第18回企画展(中村不折生誕150年「明治のイラストレーター、デザイナー、不折!」) 第19回企画展(地味にすごい!?伊那市最近◆発掘情報) 特別展(戦前の海を渡ってきた絵本たち) 特別展(戦争の中の紙伊那図書館) 特別展(伊那谷の生んだ芸術家たち(3)) 特別展(中村不折の挿絵と商業美術) 延観覧者 15,225人</td> </tr> <tr> <td>【備品購入】</td> <td>クロスパネル 10台、パソコン 1台</td> </tr> <tr> <td>【貸館】</td> <td>延利用者 15,756人</td> </tr> <tr> <td>【参考】</td> <td>H28 開館日数 302日、利用者数 42,225人 H27 開館日数 301日、利用者数 38,417人</td> </tr> </tbody> </table>				平成28年度 事業内容		【講演会】	開館6周年記念講演会 参加者 24人	【講座等】	宇宙の学校(5回)、地球の学校(5回)、夏の体験教室、秋冬の体験教室、学校単位での見学受け入れ・縄文体験教室 6講座 17回 2校 延参加者 697人	【常設展示】	神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器(国重要文化財)	【企画展展示】	第17回企画展(伊那市創造館と秘密の書庫) 第18回企画展(中村不折生誕150年「明治のイラストレーター、デザイナー、不折!」) 第19回企画展(地味にすごい!?伊那市最近◆発掘情報) 特別展(戦前の海を渡ってきた絵本たち) 特別展(戦争の中の紙伊那図書館) 特別展(伊那谷の生んだ芸術家たち(3)) 特別展(中村不折の挿絵と商業美術) 延観覧者 15,225人	【備品購入】	クロスパネル 10台、パソコン 1台	【貸館】	延利用者 15,756人	【参考】	H28 開館日数 302日、利用者数 42,225人 H27 開館日数 301日、利用者数 38,417人
平成28年度 事業内容																				
【講演会】	開館6周年記念講演会 参加者 24人																			
【講座等】	宇宙の学校(5回)、地球の学校(5回)、夏の体験教室、秋冬の体験教室、学校単位での見学受け入れ・縄文体験教室 6講座 17回 2校 延参加者 697人																			
【常設展示】	神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器(国重要文化財)																			
【企画展展示】	第17回企画展(伊那市創造館と秘密の書庫) 第18回企画展(中村不折生誕150年「明治のイラストレーター、デザイナー、不折!」) 第19回企画展(地味にすごい!?伊那市最近◆発掘情報) 特別展(戦前の海を渡ってきた絵本たち) 特別展(戦争の中の紙伊那図書館) 特別展(伊那谷の生んだ芸術家たち(3)) 特別展(中村不折の挿絵と商業美術) 延観覧者 15,225人																			
【備品購入】	クロスパネル 10台、パソコン 1台																			
【貸館】	延利用者 15,756人																			
【参考】	H28 開館日数 302日、利用者数 42,225人 H27 開館日数 301日、利用者数 38,417人																			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】事業の実施に際して、生涯学習センター、市立図書館、公民館等の社会教育施設との棲み分けを図るとともに、連携・協働を推進する必要があります。子どもが興味を持ち、参加したくなるプログラムの作成が必要です。</p> <p>【方向性】自然科学、考古、宇宙、歴史、教育等を中心にユニークで魅力ある事業の企画・運営を実践するとともに、学習と交流の拠点施設として、市民等が利用しやすい館の運営に努めます。</p>																			
自己評価	a																			



事務事業	No.4 1	高遠町歴史博物館	H28 年度決算額	29,625 千円
事業の目的	市民の歴史文化に係る学習と教養の向上を図るため、地域の歴史と文化に関する資料を収集、保管、展示します。また、市の観光にも寄与するため広く情報を発信し、資料の活用を通じた文化交流を図ります。			
事業内容	○歴史博物館の運営及び管理			
	○常設展示			
	展示場所	展示内容		
	桜シアター	満開のタカトオコヒガンザクラの映像		
	山車展示室	貴船社山車や仲町山車など勇壮な山車と祭り		
	第1展示室	高遠城のジオラマや絵図などの高遠藩関係資料 高遠城主内藤家に伝わった家宝の兜や古文書		
第2展示室 (特別展示)	藩校進徳館と「高遠の学」 伊澤修二・多喜男、中村弥六など地域が生んだ偉人たち 高遠石工と石仏師守屋貞治			
絵島囲み屋敷	江戸時代大奥で6代将軍家宣の側室月光院に仕えた絵島が、将軍家の墓参の帰路、芝居見物をして帰城が遅れ、公務をおろそかにしたとして罪に問われ、高遠へ遠流となった当時の復元屋敷を展示			
	○特別展の開催（下記）			
達成状況	<p><b>【特別展】</b>  第51回特別展  中村不折生誕150年「己を広げ己を高め」（3月25日～6月19日）  第52回特別展  セピア色の記憶（9月8日～12月18日）  第53回特別展  上伊那郡市小中学生社会科新聞展（10月22日～11月6日）</p> <p><b>【講座】</b>  歴博講座2016夏、歴博講座2016冬 参加者219人  中学生講座 参加校6校、参加者57人</p> <p><b>【施設整備】</b>  下水道管布設替え等工事(工事に伴い、12月20日～3月23日まで休館とした)</p> <p><b>【その他】</b>  地域研究スペースの設置  地域文化デジタル化事業</p> <p><b>【参考】</b>  ・特別展開催数3回（H26:4回、H27:3回）  ・年間入館者数14,951人（H26:16,782人、H27:16,816人）</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b>市民の歴史文化の学習と教養の向上のために、所蔵資料の活用、情報発信、他市との文化交流を図る必要があります。</p> <p><b>【方向性】</b>館の取り組みが市民から見え、皆さんの伊那の地を愛する思いに応える学習センターとしての働きを高めるため、常設展示に加え、魅力ある特別展や講座を開催します。そのためにも、専門知識を備え、企画・運営力がある職員を配置します。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.4 2	信州高遠美術館	H28 年度決算額	43,706 千円												
事業の目的	地域の方々が芸術文化に触れ、親しんでもらう機会を提供するため、美術館を運営します。															
事業内容	<p>○常設展 原田政雄画伯から寄贈された 668 点の作品を中心に、地元出身の中村不折、池上秀敏、江崎孝坪の作品や、平山郁夫、中川紀元などの作家の作品を展示</p> <p>○ギャラリー展 地元で活躍している作家やグループ、高校生、保育園児などの作品を展示</p> <p>○特別展</p> <p>○アートスクール 地元芸術家や東京藝術大学の学生などの指導と協力を得て、陶芸、静物画、書道などの講座を通年開催</p> <p>○ミュージアムコンサート 弦楽器やピアノなど国内外で活躍中の演奏家や地域で活躍している演奏家によるコンサート</p>															
達成状況	<p>伊那市唯一の美術館として、芸術鑑賞にとどまることなく、芸術講座などを積極的に企画し、市民の芸術文化の向上に寄与しています。</p> <p>○平成 28 年度特別展</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テ ー マ</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昭和幻風景ジオラマ展 (4月3日～5月22日)</td> <td>失われつつある街並みとそこに息づく人々の姿、残していきたい昭和の「風景」と「文化」をジオラマでメッセージしました。</td> </tr> <tr> <td>若手アーティスト展 「高遠 KONJAKU STORY」 (7月30日～9月11日)</td> <td>高遠に古くから語り継がれてきた伝説、昔話をテーマに美術家、小説家、音楽家、デザイナー、演劇家など多岐分野のアーティストによる作品展示・パフォーマンスを演出しました。</td> </tr> <tr> <td>中村不折生誕150年記念展 (9月17日～10月30日)</td> <td>不折生誕 150 年を記念しての特別展。書道博物館協力のもと、市内文化教育施設と連携して事業を展開しました。</td> </tr> <tr> <td>泉石心展 (12月8日～2月5日)</td> <td>書のあらゆる分野に精通し、作硯もおこなう異色の作家の書画、篆刻、硯を中心とした作品を展示しました。</td> </tr> <tr> <td>小松美佐子氏「歌会始の儀」 入選作品お披露目展 (2月22日～3月1日)</td> <td>1月の歌会始の儀の10首に選ばれた「宇宙より帰る人待つ 広野には引力といふ地球のちから」の歌を多くの方々に知っていただくよう、宇宙航空研究開発機構や高遠高校書道科の協力のもと、関連資料を展示しました。</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ミュージアムコンサート 平澤真希ピアノリサイタル、弘中孝ヴァイオリン・ピアノコンサート、川島成道ヴァイオリンリサイタル</p> <p>【参考】入館者数 14,294 人 (H26: 13,549 人、H27: 13,273 人) コンサート入場者 319 人 (H26: 250 人、H27: 268 人)</p>				テ ー マ	内 容	昭和幻風景ジオラマ展 (4月3日～5月22日)	失われつつある街並みとそこに息づく人々の姿、残していきたい昭和の「風景」と「文化」をジオラマでメッセージしました。	若手アーティスト展 「高遠 KONJAKU STORY」 (7月30日～9月11日)	高遠に古くから語り継がれてきた伝説、昔話をテーマに美術家、小説家、音楽家、デザイナー、演劇家など多岐分野のアーティストによる作品展示・パフォーマンスを演出しました。	中村不折生誕150年記念展 (9月17日～10月30日)	不折生誕 150 年を記念しての特別展。書道博物館協力のもと、市内文化教育施設と連携して事業を展開しました。	泉石心展 (12月8日～2月5日)	書のあらゆる分野に精通し、作硯もおこなう異色の作家の書画、篆刻、硯を中心とした作品を展示しました。	小松美佐子氏「歌会始の儀」 入選作品お披露目展 (2月22日～3月1日)	1月の歌会始の儀の10首に選ばれた「宇宙より帰る人待つ 広野には引力といふ地球のちから」の歌を多くの方々に知っていただくよう、宇宙航空研究開発機構や高遠高校書道科の協力のもと、関連資料を展示しました。
テ ー マ	内 容															
昭和幻風景ジオラマ展 (4月3日～5月22日)	失われつつある街並みとそこに息づく人々の姿、残していきたい昭和の「風景」と「文化」をジオラマでメッセージしました。															
若手アーティスト展 「高遠 KONJAKU STORY」 (7月30日～9月11日)	高遠に古くから語り継がれてきた伝説、昔話をテーマに美術家、小説家、音楽家、デザイナー、演劇家など多岐分野のアーティストによる作品展示・パフォーマンスを演出しました。															
中村不折生誕150年記念展 (9月17日～10月30日)	不折生誕 150 年を記念しての特別展。書道博物館協力のもと、市内文化教育施設と連携して事業を展開しました。															
泉石心展 (12月8日～2月5日)	書のあらゆる分野に精通し、作硯もおこなう異色の作家の書画、篆刻、硯を中心とした作品を展示しました。															
小松美佐子氏「歌会始の儀」 入選作品お披露目展 (2月22日～3月1日)	1月の歌会始の儀の10首に選ばれた「宇宙より帰る人待つ 広野には引力といふ地球のちから」の歌を多くの方々に知っていただくよう、宇宙航空研究開発機構や高遠高校書道科の協力のもと、関連資料を展示しました。															
事業の課題及び方向性	<p>【課 題】入館者数が増となりましたが、さらに文化芸術活動の振興ため、裾野を広める事業の検討や参加しやすい事業の検討が必要です。</p> <p>【方向性】親しみやすい企画展や所蔵作品を活かした展示企画の検討、市内の文化教育施設や、芸術大学等との連携について検討します。また、魅力ある講座・教室を企画、貸し館事業(コンサート・展覧会・結婚式等)も進めて、芸術文化に触れ、美術館に親しんでもらえる機会を積極的に提供します。</p>															
自己評価	b															

### 第3節 文化財の保存・継承・活用

#### 3-1：文化財の保存・継承・活用

歴史資料や美術工芸品、建造物などの文化財は、保護だけでなく、積極的に公開し、活用します。また、地域の民俗芸能を継承する活動を支援します。

##### (1)文化財の保存・継承・活用

事務事業	No.43	史跡高遠城跡	H28年度決算額	5,034千円
事業の目的	昭和48年に藩校進徳館を含め国指定史跡となった。それ以前の昭和35年にはコヒガンザクラ樹林が県の天然記念物に指定されており、4月の観桜期には多くの観光客でにぎわう。合併後の新伊那市の歴史財産である城跡の価値を損なうことなく次世代へ受け継ぎ、だれもが地域の歴史や文化を学ぶことができる環境づくりを進めるため、史跡の保存整備事業を行います。			
事業内容	・史跡高遠城跡の維持管理を行いました 保存管理計画等に基づき、復元時期を幕末に設定して復元整備を行います。土砂流出崩落を防止し、景観回復のための自然植生再生による斜面の整備を行います。			
達成状況	○ 進徳館の耐震診断業務の実施 ○ 三ノ丸北側斜面整備事業の実施			
事業の課題及び方向性	【課題】整備実施計画の短期整備計画（H17～）に基づき、残存遺構などの調査を進める必要があります。 【方向性】整備委員会の開催により後期整備実施計画を推進します。			
自己評価	b			



池上秀畝 画「旧高遠城之真景」

事務事業	No.4 4	民俗資料館	H28 年度決算額	4,288 千円
事業の目的	市内の民俗資料を継承するため、資料を収集・保管・整理・展示するとともに、体験できる施設として「高遠なつかし館」と、歴史的建造物の「旧馬島家」、「旧池上家」を企画運営します。			
事業内容	○高遠なつかし館、旧馬島家、旧池上家の企画運営			
	施設名	内容等		
	高遠なつかし館	住民から集めた昔懐かしい農具や生活用品などを展示。機織りや縄ない、蓄音機、足踏みミシンなどの体験ができる。高遠藩医を勤めた馬島家に関する資料も展示してある。		
	旧馬島家（県宝）	江戸時代に高遠藩の眼科医を勤めた馬島家の住宅。本棟造りの建物で、後世の改造が少なく、建造当初（天保7年（1836）頃）の形式を残しており、高遠藩当時の規模の大きな住宅の間取りを良く示している。		
旧池上家（市指定文化財）	豪壮な歴史の重さを感じる建物で、間口5間、奥行9間の町屋造り板葺きの住宅。町屋造りの家屋としては町内で最も古く、所蔵されている古文書も多い。池上家は、高遠城下で醤油や酢の自家醸造や販売を営みながら、代々町の重職を務めた。			
	○特別企画展示の開催（年2～3回） ○公民館と共催で体験講座を開催			
達成状況	○企画展 「ひなまつり展」2/26～4/28、「五月人形展」4/29～5/27 ○体験イベント お茶とお琴 3/24 【参考】年間入館者数4,171人（H26:4,321人、H27:3,474人）			
事業の課題及び方向性	【課題】駐車場が整備され、観桜期間中の入館者が増加しました。更に、昔を体験できる施設として広くPRし、利活用を図る必要があります。 【方向性】「観て・触って・やってみる」をモットーに、魅力ある企画展、体験講座などを実施しながら、点在する施設と周辺施設とを組み合わせた散策モデルコースを作成することにより集客できる運営に努めます。			
自己評価	b			



旧馬島家（県宝）



旧池上家（市指定文化財）

事務事業	No.4 5	旧井澤家住宅	H28 年度決算額	1,700 千円
事業の目的	伊那街道伊那部宿の宿内で唯一の本棟造で最古の建物を保存するとともに、一般公開し活用を図ります。			
事業内容	○管理及び運営を地元「伊那部宿を考える会」に委託 ○一般公開 ・建物の概要 木造一部2階建 建築延面積 389.88 m <sup>2</sup>			
達成状況	○平成 28 年度企画行事 「端午の節句飾り」、「雛飾りと繭玉作り講座」ほか 【参考】入館者数 1,638 人 (H27: 1,253 人)			
事業の課題及び方向性	【課題】 地元の歴史的施設として有効に活用するとともに、周辺施設とも関連させながら、常に魅力ある運営を継続して進める必要があります。 【方向性】 地元の伊那部宿の貴重な歴史資料を生かし、多くの来館者を誘客できる企画について継続して見直しを進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.4 6	民俗文化の伝承	H28 年度決算額	1,350 千円
事業の目的	「山寺のやきもち踊りの習俗」や「中尾歌舞伎」、「高遠囃子」などの民俗文化を継承する活動を支援します。			
事業内容	中尾歌舞伎などの民俗文化の継承を図るため、国・県・市の補助・助成制度を活用した支援事業を行っています。			
達成状況	平成 28 年度事業 ○伝統文化親子教室事業（文化庁）を活用（6 団体） ○中尾歌舞伎の保存伝承活動に関する支援策や協力体制を整えるための検討チームを立ち上げました。			
事業の課題及び方向性	【課題】 地域の民俗文化を伝承しようとする地域の活動や保存会を支援する必要があります。 ○中尾歌舞伎の継続的な活動ができるようになるための組織（保存会）の在り方の方向性として、中尾区・長谷地区という小さい範囲から伊那市全体としての組織再構築の検討、それに伴う会員や協力者の募集の方法、また、どういった支援策や協力体制が必要なのかを協議・検討し、市のバックアップ体制を模索していきます。 ○中尾歌舞伎の当面の活動として、公演は春の定期公演のみの年一回とし、今後の会員の募集等により組織の体制が整ったところで公演回数の見直しをしていきます。また、小中学生が歌舞伎とのかかわりを多く持てる機会を提案または依頼していきます。 【方向性】 有利な財源を確保しながら支援を進めます。			
自己評価	b			

## 第4節 スポーツ・レクリエーションの振興

### 4-1：豊かなスポーツライフの実現

いつでも、どこでも、だれもがスポーツに親しみ、心身の健康の保持増進を図るとともに、活力ある地域社会を形成するため、生涯スポーツを推進し、市民一人ひとりの「豊かなスポーツライフ」の実現をめざします。

#### (1) スポーツライフの実現

事務事業	No.4 7	市民体育祭	H28 年度決算額	1,385 千円
事業の目的	伊那市におけるスポーツの振興・推進のため、市民を対象とした当該大会を開催することにより、市民のスポーツの関心を喚起し、健康増進に寄与します。			
事業内容	○市民体育祭の開催 ( ) 内 H27			
	種 目	参加者数	種 目	参加者数
	ゴルフ	183 (205) 人	バドミントン	90 (118) 人
	軟式野球 (学童)	320 (281) 人	バレーボール	300 (186) 人
	〃 (一般)	558 (410) 人	バスケットボール	200 (250) 人
	山岳	24 (22) 人	ソフトボール	320 (273) 人
	太極拳・気功	35 (39) 人	ソフトテニス	中止 (175) 人
	少林寺拳法	36 (42) 人	卓球	95 (94) 人
	ゲートボール	63 (80) 人	柔道	124 (167) 人
	硬式テニス	20 (36) 人	サッカー	120 (90) 人
	弓道	125 (149) 人	マレットゴルフ	72 (70) 人
	剣道	318 (325) 人	ソフトバレー	150 (188) 人
	陸上	41 (58) 人	スケート	12 (中止) 人
	トリムバレー	161 (186) 人	綱引	36 (39) 人
	フットサル	中止 (269) 人	スキー	40 (46) 人
	海洋	513 (301) 人	パターゴルフ	32 (37) 人
カヌー	13 (10) 人	ラグビー	40 (18) 人	
達成状況	<p>体育協会の各専門部が種目毎に主管となって実施し、市民に最も身近なスポーツ大会として開催しています。ホームページ等の広報を充実させ、参加者を増やす方策を講じながら、継続して開催することを目標に実施しています。平成 28 年度は、ソフトテニス競技が雨天のため、フットサル競技が施設の改修工事のため2種目が中止となりました。</p> <p>【参考】平成 28 年度実施状況 27 種目 28 部門 (7 月 3 日から 2 月 19 日) 2 種目中止 参加人数 4,041 人 (H26:3,636 人、H27:4,164 人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課 題】多くの市民が参加できるよう、競技性のみでなく、普及を念頭に置いた体験型の内容や、広報を充実させることにより参加者を増やす工夫が必要です。</p> <p>【方向性】引き続き広報等 PR に努め、市民が参加しやすい大会の持ち方と初心者が参加できる種目も検討し、開催します。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.48	総合型地域スポーツクラブ	H28年度決算額	4,798千円
事業の目的	スポーツの振興及び市民の健康増進・体力向上を図ります。			
事業内容	総合型地域スポーツクラブの活動支援 ・スポーツ教室の開催、各種イベント・大会の開催			
達成状況	<p>市民が手軽にスポーツを楽しむことができるスポーツクラブとして、各種イベントや教室の開催を通じ、会員の登録数が着実に増えてきています。</p> <p>通年開催の講座は90を超えており、スポーツ以外の分野の教室も開催しています。これは、スポーツに関心のない市民にとって、新たにスポーツに取り組むきっかけづくりとなることへの期待や、多くの会員を確保しクラブの経営を安定させるなどの目的があり、先進的な取り組みと評価されています。</p> <p>平成28年度も市からの委託事業で、各スポーツ団体向けに指導者スキルアップ講座を開催しました。また、健康推進課から健康応援ポイント事業を受託し、市と連携して市民の健康増進に貢献しました。</p> <p>これまでの体育施設利用料金の減額に代わり、減額相当分を助成する形で平成26年度より支援を行っています。</p> <p>今後、伊那市の生涯スポーツ振興の中心を担う存在となることが期待されています。</p> <p>【参考】クラブ登録会員数 3,314人 (H26:2,320人、H27:2,658人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】会費については県下のクラブの中でもトップクラスであり、会費に見合う、地域ニーズにあった各種事業を開催する必要があります。今後、長年にわたり維持可能な組織・運営形態について一緒に検討していきます。</p> <p>【方向性】各種大会、教室の開催など、より多くの市民がスポーツに係われるようなクラブ運営が推進できるよう支援します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.49	春の高校伊那駅伝	H28年度決算額	9,500千円
事業の目的	長野県内の陸上長距離競技のレベルアップ及び振興を図るとともに、観光や合宿等の集客や伊那市のPRを行います。			
事業内容	春の高校伊那駅伝の実施 ・実行委員会の運営 ・関連団体や関係機関及び参加校等との連絡調整全般			
達成状況	<p>全国から注目を集める大会に成長し、男女合わせて196校がエントリーしました。当日は177チームと多くの学校が参加し、大会の充実が図られました。好天に恵まれ、応援運動やイベントなども盛り上がりを見せ、沿道からたくさんの市民に応援していただき、市民とともに作り上げる駅伝となっています。今大会は、男子40回大会を記念して、BS放送による全国放送やモニュメントの設置などを行いました。</p> <p>また、伊那市の魅力発信・合宿誘致についても、機会を得て合宿ガイドや観光パンフレットを送付し、取り組みを進めています。今大会でも、農家民泊の利用を案内し、3校が宿泊しました。</p> <p>【参考】エントリー数1,855人 (H26:1,940人、H27:1,741人) 出場数177チーム (H26:185チーム、H27:165チーム)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】陸上競技の普及・振興とともに、伊那市のPRにきわめて有効な事業であるため、観光PRや合宿誘致等も念頭におき、「駅伝のまち」として大会を充実させる必要があります。また、参加校が増えたことから、引き続き安全な大会となるよう交通規制等について常に見直しを行う必要があります。</p> <p>【方向性】実行委員会を中心に、魅力ある安全な大会運営を進めます。</p>			
自己評価	a			



事務事業	No.50	ソフトボールの振興	H28年度決算額	800千円
事業の目的	ソフトボールのまち「伊那市」として、毎年継続的に全国規模の大会を開催することにより、市民にハイレベルな試合観戦の機会を提供しています。			
事業内容	○全国規模の大会の開催 ○長野県ソフトボール協会へ大会補助金交付			
達成状況	○平成28年度については、次の大会を伊那市で開催することができました。 ・第37回北信越国民体育大会ソフトボール競技大会 成年男子・成年女子・少年男子・少年女子の北信越各県代表チーム 20チーム 参加者数 275名 (平成28年8月20日(土)～21日(日)) また、4月に開催されている伊那市ソフトボール協会主催の「全国ハイシニア信州伊那さくら大会」は5回目を数え、スーパーハイシニアの部を加え全国から大勢の参加があります。 ○小学生女子チーム「アルプスイーナちゃんクラブ」も、継続的な活動をしています。			
事業の課題及び方向性	【課題】全国大会の誘致と、競技人口の拡大を図る必要があります。 【方向性】引き続き全国規模の大会誘致と式典の簡素化など経費の見直しを行なうとともに、ソフトボール教室の開催、指導者の育成など競技人口の拡大ができるよう、ソフトボール協会を支援します。			
自己評価	a			

事務事業	No.51	体育施設の整備	H28年度決算額	257,078千円
事業の目的	利用者の利便性向上を図るため、体育施設及び設備の整備を進めます。			
事業内容	体育施設等の管理及び整備			
達成状況	平成28年度事業 (1) 高遠スポーツ公園文化体育館耐震化工事(平成28～29年度の継続事業) (2) センターテニスコート改修工事 (人工芝敷設工事、擁壁塗装工事、管理棟トイレ洋式化工事) (3) 振興公社事務所移転工事(電話、火災警報装置移転工事) (4) 市営野球場防球ネット増設工事 (5) 高遠プールろ過材取替工事 (6) 市民体育館サブアリーナコートライン変更工事			
事業の課題及び方向性	【課題】老朽化施設の整備及び施設の統廃合を順次進める必要があります。 【方向性】平成28年度に策定した「伊那市体育施設整備計画」に基づき、体育施設の計画的な改築・更新及び統廃合を行っていくこととします。			
自己評価	a			



春の高校伊那駅伝



センターテニスコート人工芝敷設



【参考】

平成29年度 教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書  
追加・廃止事業及び前年度自己評価から変更のあった事業にかかる評価理由

1 追加事業

No.	該当なし	→

2 廃止事業

旧No.19-2	親孝行の讃歌事業	a→
隔年実施のため。		
旧No.3 1	子ども週末活動の支援	b→
平成26年度で市事業委託終了のため。		

3 前年度自己評価から変更のあった事業

No.1 9	長谷生涯学習講演会	a→b
開催当日に長谷地域において移住フォーラムが開催され、参加者に影響が出たため。 (H27;104人→H28;80人)		
No.4 3	史跡高遠城址	c→b
前年度国庫補助要望が不採択となり事業に着手できなかったが、平成28年度は、進徳館の耐震診断業務、三ノ丸北側斜面整備事業を実施したため。		

## 伊那市教育委員会評価委員による意見

### 1 教育委員会の自己評価について

「妥当」である。

- 【理由】 幼保、学校教育、生涯学習、芸術文化、スポーツ振興等、多岐にわたる事業に取り組み、市民の教育力向上、環境整備等の施策が行われている。また、一定の成果を上げている。  
さらに、自己評価 a が増えることを願う。

### 2 伊那市の教育行政及び事務事業全般について

- (1) これからは、地域を支える人材育成が大きな課題となってくると思われる。その意味では、義務教育段階での、地域の特徴を活かした教育、地域人材を活用した実践的な学習の積極的な取り組みは、非常に有益であると思う。今後も充実した取り組みをお願いしたい。
- (2) 現在、県立高校においては、探究的な学びの基盤として「信州学」の積極的な実施を推進している。伊那市では、社会教育活動の充実、文化財の保存や地域文化の継承がしっかりとなされている。「信州学」の実施においては、このような利点を効果的に活用できるよう、高校との連携を図ってほしい。
- (3) 児童生徒の学力の定着・向上とともに、特別な支援を要する児童生徒への対応、不登校児童生徒への支援等、教育現場では様々な課題を抱えている。課題解決のために、今後とも適切なサポート、支援体制の拡充をお願いしたい。
- (4) 子どもにとって「読み書き」は学びの基本だと考える。子どもたちがノートをとる量が減ってきていると感じる。そうした中で ICT 教育の取り組みも大切だと思うが、紙の持つ特性、書いて覚えることの必要性、読んで考えることの大切さも残していただきたい。
- (5) 少子化、核家族化、過疎化が進行し、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しており、子どもが健全に成長するために地域全体で子どもを育む環境整備の充実を願う。
- (6) 各学校が地域の豊かな自然や歴史、時代の変遷等の学習を実施し、郷土の良さを知る取り組みができている。若者が未来を創造できるよう、この地で心豊かに成長することを期待する。
- (7) 中学校での教職員のための読み聞かせ講座「読書活動、読み聞かせ活動がもたらす子どもへの教育効果について」のワークショップを開催した際、参加した教職員の一部に情操の欠如と感情表現の乏しさを感じた。また、2年ほど前の小学校の総合学習に関わった際にも同様の感想を抱いた。研修のありようなどについて十分検討し、教職員が人として成長して自分を高め、子どもたちの指導に携わり、子どもたちを育ててくれることを願う。

### 3 各事務事業について

No.	事務事業等	意見等
1-1	総合的な学習	<p>体験学習は貴重な体験だと思う。しかし、学校で畑や田を確保するのが最近では難しいという話を聞いたことがあり、そうした学校には市で農地の確保を考えていただきたい。</p> <p>信州型コミュニティ・スクール事業も地域の中に根付きつつある。それとともに市外、県外、国外と広い世界の中での郷土を見つめられるような創造的な活動の展開を図っていただきたい。</p>
1-2	キャリア教育の推進	<p>キャリア教育は将来の夢を考える上で必要な一環だと思う。是非すべての学校で取り入れていただけるように配慮をお願いしたい。</p> <p>PTA 連合会のメンバーで東部中学校のキャリア教育に参加させていただいた。やはりネームバリューのある企業に人が集まってしまうところがあるが、是非とも、個人で頑張っている商店等にも声がけをしていただきたい。</p> <p>職場体験学習は中学生にとって、ライフワーク、自身の特性等を見つめるよい機会になっており、目指す方向性として効果が上がっている。キャリア教育の一貫性、継続性を担保することは難しい。キャリア教育プログラムの中にボランティア教育等を含めることも一案ではないか。</p>
2	学力向上	<p>伊那市の学力向上の取り組みは充分評価できると思われるが、小学校の低学年の学習において、担任の考え方によって、基本学力の定着が著しく異なると思う。職員の意識向上を図り学力格差の是正に取り組んでほしい。</p>
3	幼保小中の連携	<p>幼保小の連携は学童初期において大切なものだと思う。特に近年増加している発達障害児については、5歳段階で発見することができ、その後の支援によって入学後の生活がスムーズになると小児科医から伺った。小学1年生について各々の特徴をとらえ学校生活に対応できるように対応願いたい。</p>
4	読書活動の推進	<p>読むということは人間にとって大切な行動であり、是非、中学生に対して文章の読解力をつけるために新聞に触れる機会を作っていただきたい。</p> <p>上伊那地域で、35年余り読書推進活動を行ってきた。本の読み聞かせは子どもの想像力を育み、語彙力をアップする、家族のコミュニケーションにも役立つと言われており、より大勢の読み聞かせボランティアの活用を期待する。</p>
5	特別支援教育	<p>発達障害を持つ児童・生徒について、学校と家庭とのつながりが弱いのではないか。個々の児童生徒に応じた教育支援の方法などについて、十分親に伝わっていない事例があった。学校がしっかりと支援方法を提案する等、足並みをそろえた対応を望む。</p>
6	外国籍児童生徒の支援	<p>グローバル化により、外国籍児童生徒への日本語教育が求められており、継続した支援を望む。また、日本語がわからない親とのコミュニケーションが十分取れていない事例がみられるので、どの親ともコミュニケーションが図られるような通訳の配置等に努めてほしい。</p>
7	給食運営 給食施設整備	<p>給食調理場が整備され、衛生面での安全の向上が図られてきた。子どもたちの健康や成長には欠かせない事業である。郷土の食材を活用した「暮らしのなかの食」の取り組みの継続に期待したい。また、家庭環境の変化により、子どものみで食事をとる傾向が強まっている。食育の中で食事のマナーなども伝えてほしい。</p>
9	学校備品整備・情報教育	<p>今後は、タブレットや電子黒板等 I C T 機器等を積極的に活用した教育実践の必要性が益々高まってくるとされる。情報機器やデジタル教材の整備とともに、I C T 教育を行う教員の指導力育成にも尽力していただきたい。</p>

No.	事務事業等	意見等
10-1	高等学校振興	今後、県立高校における「学びの改革」推進には、地域との協働、連携による「社会に開かれた教育課程」の展開が重要となってくる。高遠高校の教育充実のために、今後とも様々な協力、支援をお願いしたい。 高校再編問題を踏まえて、高遠高校には地元と協力し魅力ある特色のある学校作りを進めていただきたい。
13	子育て教育支援相談 家庭児童相談	心の教育の支援体制を整備し、学校や関係機関との連携で、児童・生徒、家庭への迅速な対応を図ることに努めてほしい。
16	スクールカウンセラー配置	スクールカウンセラーによる専門的な援助は、学校現場においては非常に有用であると思う。今後とも拡充をお願いしたい。 スクールカウンセラーについて、悩みは目に見えないものだが、面談以外でも悩みを相談できるような仕組み（メールやLINE等）を考慮していただきたい。
23	公民館事業	公民館活動は、生涯学習の推進拠点として大きな役割がある。伊那市全体では、公民館利用者数が年々増加しており、取り組みの成果が現れているのではないと思う。今後とも、活発な公民館活動により、地域の活性化、地域力の向上に貢献してもらいたい。 伊那市の公民館活動は活発に行われている。多様な事業を通じ、年代を超えた人と人とのつながりが、地域づくりと地域文化の伝承に大いに役立っており、子どもから高齢者までが集い、共に育つ場の提供に努めてほしい。
29	学校人権同和教育	人権同和学习はとても大切な学習であり、学習時期は小学校高学年から中学校までが適切だと考える。低学年では理解が難しく、高校では遅すぎると思う。学習に当たっては、事例を取り上げるよりも実体験に基づく講演などの方が理解しやすいのではないと思う。
30	学童クラブ	保護者の就労等により、下校後児童の安全を守るため、学童クラブの利用が年々増加しており、施設整備が追い付いていない現状がある。子どもたちの安全安心のため、早急な環境整備が必要と考える。
34 ～ 36	伊澤修二記念音楽祭 い〜な音楽祭 市民音楽祭	各々が特色を持って地域に根付いており、より一層事業内容の充実を図って良質な音楽を提供していただきたい。
40	創造館	創造館は貴重な学習教材の宝庫だと思う。その教材をいかにして子ども達に触れさせることができるかを考えていく必要がある。
47 ～ 51	スポーツライフの実現	子どものスポーツ離れや運動能力の低下が言われており、健康増進や体力向上などライフワークを見据えて、スポーツ振興を進めていくことが課題であると思う。
49	春の高校伊那駅伝	毎年大変な盛り上がりを見せる駅伝だが、まだまだ応援は一部の人に留まっていると思う。沿道もより多くの人達でにぎわうような多くの人を巻き込んでいけるイベントを考えていただきたい。

平成29年度

伊那市教育委員会評価委員

伊那弥生ヶ丘高等学校長

駒瀬 隆

中部PTA連合会会長

山田 光洋

伊那市女性人材バンク

金丸 恵美子